

履修コード	044401 044402
科目名	外国考古学概説
担当者名	飯島 武次

講義の到達目標(ねらい)	「中国の考古学」について講義をおこなう。考古学専攻生として中国考古学の常識的知識を身につけてもらう。これまでの中国考古学の学史的流れを把握し、各時代の様相を考古学の視点から見ていきたい。あつかう時代は、旧石器から新石器・青銅器時代、および秦・漢から隋・唐くらいまでを予定している。
講義の内容／授業スケジュール	前期は学芸員課程のための履修者もいることから、考古学の研究法から開始する(第1回)。その後中国考古学の歴史(第2,3回)、旧石器時代～青銅器時代(第4～10回)、夏・商・周(第11～15回)を予定している。後期は北方系青銅器文化(第16～20回)、秦・漢(第21～24回)、魏晉から隋唐(第25～30回)を予定している。 必要に応じて、海外調査・学会動向などの情報にも触れる予定である。
準備学習	授業終了時に次回の授業内容を紹介するので、予習をしてくること。授業終了後はノートをまとめること。
履修上の留意点	授業に積極的な姿勢で臨むことを希望する。
成績評価の方法	学年末試験の成績によって判断する。合格は60点以上。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	飯島武次、2003、『中国考古学概論』(同成社)。
その他	授業は講義が中心となる。できるだけスライドや映像などを用い、内容の理解を深められるよう努めたい。

履修コード	055631 055632 055633
科目名	外国史学基礎演習 西洋史学基礎演習 東洋史学基礎演習
担当者名	佐々木 真

講義の到達目標(ねらい)	大学で歴史学を学習し、4年間で立派な卒業論文を仕上げるために必要な、基礎的な技術を習得することを目的とした授業である。
講義の内容／授業スケジュール	1年間を通じて、以下のような内容を扱う。 a) 図書館の使い方 b) インターネットの利用方法 c) 歴史学に関する文献(書籍や研究論文)の探し方 d) レポートの書き方と提出されたレポートの添削 e) 歴史研究のための地理 f) 授業での発表 具体的なスケジュールは以下の通り。 (1)ガイダンス (2)歴史学への誘い (3-4)図書館利用について (5-7)パソコンやインターネットの利用方法 (8-12)歴史学研究における情報収集 (13-14)歴史研究のための地理 (15)個別報告について (16-30)個別報告、この他6月末から7月の日曜日に博物館見学を予定している。
準備学習	後期の報告に関しては、選択したテーマに関する文献を調べ、報告準備をすること。
履修上の留意点	外国史学専攻の基礎となる授業であり、履修者にレポートの提出や発表などを行ってもらい、担当教員との交流の中で必要な技術や知識を習得することを目的とする。そのため、受講生の授業への積極的な参加が重要であり、必ず毎時間出席すること。原則として欠席は認めない。
成績評価の方法	成績は授業中の発表やレポート、必要に応じて行うテストの結果などを総合し、判定する。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しない。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
その他	授業は担当教員による解説と、それに対応して受講生が行う具体的作業を繰り返すことにより進行する。

履修コード	043521 043522 043523
科目名	外国史学基礎演習 東洋史学基礎演習 西洋史学基礎演習
担当者名	杉山 清彦

講義の到達目標(ねらい)	大学で歴史学を学習し、4年間で立派な卒業論文を仕上げるために必要な、基礎的な技術を習得することを目的とした演習である。
講義の内容／授業スケジュール	1年間を通じて、以下のような内容を扱う。 a) 図書館の使い方 b) インターネットの利用方法 c) 歴史学に関する文献(書籍や研究論文)の探し方 d) レポートの書き方と提出されたレポートの添削 e) 歴史研究のための地理 f) 調査研究発表 具体的なスケジュールは以下の通り。 (1)ガイダンス (2)歴史学への誘い (3～4)図書館利用について (5～7)パソコンやインターネットの利用方法 (8～12)歴史学研究における情報収集 (13～14)歴史研究のための地理 (15)個別報告について (16～30)個別報告 このほか、6月末から7月の日曜日に博物館見学を予定している。
準備学習	後期の報告に関しては、選択したテーマに関する文献を調べ、報告準備をすること。
履修上の留意点	外国史学専攻の基礎となる演習であり、履修者にレポートの提出や発表などを行ってもらい、担当教員との交流の中で必要な技術や知識を習得することを目的とする。そのため、受講生の積極的な参加が重要であり、必ず毎時間出席すること。原則として欠席は認めない。
成績評価の方法	成績は演習中の発表やレポート、必要に応じて行うテストの結果などを総合し、判定する。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しない。
その他	演習は、担当教員による解説と、それに対応して受講生が行なう具体的作業の繰り返しにより進行する。

履修コード	043511 043512 043513
科目名	外国史学基礎演習 東洋史学基礎演習 西洋史学基礎演習
担当者名	中村 淳

講義の到達目標(ねらい)	大学で歴史学を学習し、4年間で立派な卒業論文を仕上げるために必要な、基礎的な技術を習得することを目的とした授業である。
講義の内容／ 授業スケジュール	1年間を通じて、以下のような内容を扱う。 a) 図書館の使い方 b) インターネットの利用方法 c) 歴史学に関する文献(書籍や研究論文)の探し方 d) レポートの書き方と提出されたレポートの添削 e) 歴史研究のための地理 f) 授業での発表 具体的なスケジュールは以下の通り。 (1)ガイダンス (2)歴史学への誘い (3-4)図書館利用について (5-7)パソコンやインターネットの利用方法 (8-12)歴史学研究における情報収集 (13-14)歴史研究のための地理 (15)個別報告について (16-30)個別報告、その他6月末から7月の日曜日に博物館見学を予定している。
準備学習	後期の報告に関しては、選択したテーマに関する文献を調べ、報告準備をすること。
履修上の留意点	外国史学専攻の基礎となる授業であり、履修者にレポートの提出や発表などを行ってもらい、担当教員との交流の中で必要な技術や知識を習得することを目的とする。そのため、受講生の授業への積極的な参加が重要であり、必ず毎時間出席すること。原則として欠席は認めない。
成績評価の方法	成績は授業中の発表やレポート、必要に応じて行うテストの結果などを総合し、判定する。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しない。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
その他	授業は担当教員による解説と、それに対応して受講生が行う具体的作業を繰り返すことにより進行する。

履修コード	028201
科目名	ギリシャ語
担当者名	長谷川 岳男

講義の到達目標(ねらい)	西洋の多くの言語の語彙や文法にとってルーツに位置する古典ギリシア語の基礎を学ぶことを主要な目的としています。そして古典ギリシア語のみならず、その文法や語彙の学習、読解を通して、英・独・仏・伊などの言語の仕組みを理解することもめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は、第一回目のオリエンテーションで古典ギリシア語を用いていた古代ギリシア世界が西洋文明において有する意義と、西洋諸言語における古典ギリシア語の影響と学ぶ現代の有用性を説明して学習の動機付けを行います。第二回目、三回目はローマン・アルファベットとは異なるギリシア・アルファベットを学び、第四回目から5回程度、文法の基礎事項を扱って、現代の西洋諸言語に通ずる決まりを理解します。その後、簡単な古典ギリシア語の講読を文法事項の学習とともに進めることで、古典ギリシア語の理解を深める予定です。このような進行の合間に、古典ギリシア語の理解には、その背景にある古代ギリシア世界の理解が不可欠なために、何度かビデオやスライドなどで、ギリシア世界に触れてもらおうと思っています。
準備学習	課題として出される教科書の練習問題やテキストの和訳の予習が必要となります。
履修上の留意点	ただ講義に参加するだけでは古典ギリシア語の習得は難しいので、受講生の皆さんの積極的な取り組みが必要です。具体的には、最初の文法事項の学習の際には、練習問題を解いて参加しなければ意味がありませんし、講読の際には事前に予習することが不可欠になります。
成績評価の方法	二度行うテスト、講義時に練習問題を解いたり、講読において和訳する際の積極的な参加などを総合して評価します。ですから出席は必要となります。このような形で評価しますので、追試験は行いません。
教科書／テキスト	田中利光『新ギリシア語入門』、大修館書店、3400円、ISBN 4-469-21191-5。それ以外に必要なものはこちらで印刷して配布します。
参考書	講義中に随時、指示します。

履修コード	046301
科目名	記録史料学I
担当者名	松本 信道 久保田 昌希 鈴木 雅晴

講義の到達目標(ねらい)	古代から近世にいたるわが国の史料保存の歴史や史料論について講義する。とかくおちいりがちな、ひとつの時代に片寄った史料論ではなく全時代を対象とした古文書学をめざす。また、文書を後世に残していこうという姿勢を国家レベルで打ち出した公文書館法(昭和62年制定)やアーキビスト(文書士)養成問題などもふまえて史料の保存と利用に関する問題にもふれるつもりである。さらに、古文書のみならず歴史資料として絵画や出土遺物・金石文なども視野に入れて考えていきたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)ガイダンス……(担当教員全員)。 (2)文字の伝来と受容、(3)～(5)古代の文書様式、(6)正倉院文書、(7)木簡、漆紙文書・墨書土器などの利用法、(8)金石文の有効性…(松本担当)。 (9)～(11)中世の史料について、(12)～(14)中世史料学、(15)～(18)中世史料の管理、(19)～(20)中世史料の保存と伝来…(久保田担当)。 (21)近世文書の特徴、(22)近世文書の所在と種類、(23)～(26)武家文書のいろいろ、(27)町方・村方文書の所在と種類、(28)年貢の賦課・徴収と文書、(29)領支配と文書、(30)訴訟と文書…(中野担当)。 ※以上とは別途に文書館・史料館等への見学を実施する予定。
履修上の留意点	古代から近世までの古文書の全体について学びたいと思っている学生、また、従来の古文書学に加えて史料の保存・利用といった観点に興味をもっている学生の履修を期待する。
成績評価の方法	試験・レポートの成績によって評価する。
教科書／テキスト	教科書は特定のものを用いず、必要に応じて担当教員が指示する。
参考書	各担当教員が教場において指示・紹介する。
その他	講義が中心となるが、必要に応じてビデオ・スライド・OHPなどを使用する。

履修コード	044811
科目名	記録史料学II
担当者名	熊本 史雄 小泉 雅弘

講義の到達目標(ねらい) 現在、各地の文書館などで記録史料を取り扱う専門職（アーキビスト）の設置が検討されており、その必要性が広く認識されているが、本講義では、記録史料を取り扱う基本的な知識を取得する事を目的としている。ここでは、明治維新以降に作成された様々な「近代史料」について、史料の収集や整理、保存さらに修復など、さらには近年注目される「オーラルヒストリー」の方法など、「記録史料（アーカイブ）」の全般について講義する。前期は、とくに公文書の読解における作法を学び、後期は、「近代史料」の取り扱い全般について学ぶ。前期では具体的には外交文書（電報、公信）を主として採り上げ、そこから窺い知れる文書処理や政策決定の過程、さらには「記録」として保存されることの意味につき検証する。これらを踏まえ、階層構造をなす文書群の固有の体系性について考える。また、「記録史料学」の授業の中では、教室での講義にとどまらず、実際に文書館を訪ね、現物の史料にふれると共に史料整理や保存などの現場を見学し、実践的な学習を重視する。

講義の内容／ 授業スケジュール	1回	講義の概要（授業計画／参考文献）（担当：熊本・小泉）
	前期（担当：熊本）	
	2回	記録史料学とは－歴史学と記録史料－〔概説〕
	3回	記録史料学の方法と対象－補助科学としての史料学からアーカイブズ学へ－〔概説〕
	4・5回	公文書館の機能と役割 〔公文書館論〕
	6回	国民国家形成とアーカイブズ①－フランス革命と文書館－〔公文書館論／記録管理論〕
	7回	国民国家形成とアーカイブズ②－近代日本の文書行政－〔公文書館論／記録管理論〕
	8回	近代日本と公文書①－外交文書－〔記録資料論／記録管理論〕
	9回	近代日本と公文書②－拓務省関係文書－〔記録資料論／記録管理論〕
	10回	近代日本と公文書③－府県文書と町村文書－〔記録資料論／記録管理論〕
	11・12回	公文書のライフステージと評価・選別－移管・保存・廃棄－〔評価・選別論〕
	13回	「近代史料学」の世界－文書群の構造と組織機能の解明－〔「近代史料学」〕
	14回	「情報公開法」と「近代史料学」〔「近代史料学」〕
	15回	中間試験
		《以上前期》
	後期（担当：小泉）	
	16回	公文書館の資料収集について
	17回	史料の整理－現状記録論－
	18回	史料の整理－封筒詰め・封筒書き－
	19・20回	史料の整理－目録の作成－
	21・22回	史料の保存と管理
	23回	マイクロカメラの組立て・操作
	24・25回	史料の修復
	26回	史料閲覧の考え方
	27回	「オーラルヒストリー」の方法
	28・29回	記録映像の制作と活用
	30回	まとめ

履修上の留意点	積極的に授業に参加し、史料に接する事の喜びを感じ取ってほしい。また、「公文書」がもつ「固有の体系性」を学び取って欲しい。
成績評価の方法	前後期授業における試験の結果（70％）と、出席状況と授業態度さらに夏冬にそれぞれ行う公文書館訪問への参加（30％）、などを総合的に判断する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
その他	「記録史料学I」と合わせての履修が望ましい。夏と冬に文書館見学を行う。

履修コード	054601
科目名	考古学演習I
担当者名	飯島 武次

講義の到達目標(ねらい) 中国考古学に関する原書講読（中国語文献）を通して、中国語による中国考古学の学習方法を身につけることを「ねらい」とする。中国語の考古学基礎用語・遺跡名・遺構名称を確認しながら、それを今後の調査研究・発掘調査に活かしてもらおう。

講義の内容／ 授業スケジュール	前期	
	①	基本講義 - 中国の人文地理
	②	基本講義 - 中国考古学史 1
	③	基本講義 - 中国考古学史 2
	④	担当教員による中文講読
	⑤～⑬	学生による基本講読 中文原書の読み方
	後期	
	⑭～⑰	学生による講読 中文原書からの発表
		中国社会科学院考古研究所、『中国考古学 両周巻』（2004年）の中文講読を行う。講読部分の引用関連文献にも目を通しておく必要があり、遺跡分布図などの図版作成の必要もある。
	⑱	総括

準備学習	予習を行い講読箇所の表音文字（拼音字母）を必ず調べておくこと。
履修上の留意点	発表者はいかなる理由があっても無届けで欠席・遅刻をしないこと 状況によっては、成績評価に大きく影響することを書き添えておく。
成績評価の方法	出席状況（発言回数など積極的な参加状況を重視する） 発表内容（発表の創意工夫、原書内容の理解度など）
教科書／テキスト	講読テキストはコピーして配布する（要実費）。 『中国考古学 両周巻』 2004年 購入する必要はないが、図書館等で現物を確認すること。テキスト以外の必要箇所等は複写して入手すること（適時指示する）
参考書	授業時に指示する
その他	中国考古学で卒業論文を予定している学生は必ず履修すること。 基礎的な中国語能力を有していることが望ましい。

履修コード	054501
科目名	考古学演習I
担当者名	酒井 清治

講義の到達目標(ねらい)	将来卒業論文を作成するための基礎的な力を養うため、日本考古学の論文の読み方、論文作成のための資料収集法、執筆の方法、考古学の考え方を学ぶ。また、論文作成の基礎知識を養う。そこから何をどのように研究するか自ら探し出していけるよう指導する。
講義の内容／授業スケジュール	いくつかの日本考古学の論文や書籍の中から自分の興味ある題材を選択し、発表要旨を作成して発表してもらう。その中から発表の仕方、文献や資料の使い方、図版の作り方などを学び、発表の内容などについて全員で論議する。また、興味あるテーマの文献目録を作成して、卒論準備を行い、研究テーマを絞るよう指導する。時間があれば、博物館で資料を見ながら講義し、資料の見方を学んでもらう。
準備学習	考古学に対する興味を深めるために考古学資料を見ること。興味ある分野の文献集成を行い、その中からいくつかを取り上げ、何度も読み返して興味深め、論文の構成を勉強してほしい。
履修上の留意点	受講者はそれぞれが積極的に論文を読み、発表に対する質疑にも積極的に参加すること。また関連する遺物・遺跡を自ら積極的に見学することを心がけること。
成績評価の方法	研究レポート、発表要旨、報告者へのコメント、出席状況。特に授業で発表者に質問した回数は重視する。また最後に自分が興味を持って、将来卒業論文を書こうとする分野の論文集成を提出してもらう。
教科書／テキスト	研究する上に必要な論文等は授業の中で指摘する
参考書	論文掲載の引用文献
その他	授業はゼミ形式で

履修コード	054611
科目名	考古学演習I
担当者名	寺前 直人

講義の到達目標(ねらい)	日本考古学の卒業論文を作成するための基礎的な力を養う。論文作成のための批判的な立場での先行研究の読み方、これまでの研究と最新の資料状況との対比をとおして、卒業論文の作成にいたる論点を抽出するノウハウを学ぶ。
講義の内容／授業スケジュール	これまでの日本考古学の論文や書籍から興味ある題材を選び、レジュメを作成して発表してもらう。発表方法、文献や資料の引用、図版の作成方法などについて随時指導する。発表の内容などについては全員で論議する。後期には発表した内容を考慮して卒論の題材を想定したテーマの研究史をまとめたレポートを提出する。
準備学習	できるだけ多くの遺跡や遺物など考古学資料をみて、展示説明や書籍での説明で分からなかったこと、納得できないことをみつけること。このような意識で資料に接することが、卒業論文のテーマをみつけることにつながります。
履修上の留意点	授業はゼミ形式で行います。発表に対する質疑に積極的に参加すること。また関連する遺物・遺跡を自ら積極的に見学することを心がけること。
成績評価の方法	研究レポート、発表要旨、報告者へのコメント、出席状況。授業で発表者に質問した回数は重視する。
教科書／テキスト	研究する上で必要な論文等は授業の中で随時紹介する。
その他	授業はゼミ形式。

履修コード	056001
科目名	考古学演習II
担当者名	飯島 武次

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の提出を到達目標とする。学術論文は、一定のルールによって作成されており、卒業論文においてもその様式が求められる。卒業論文作成のための研究の進め方や、論文の書き方などを指導する。また、履修者の発表を行うことにより、各人のテーマに沿った卒業論文の進め方も指導していく。
講義の内容／授業スケジュール	卒業論文の研究手法の指導を行う。また、論文作成のためのノウハウや、論文の形式、章立てのやり方なども指導していきたい。 履修者は、卒業論文の進捗状況に合わせ、研究発表を行う。 前期 ①～③ 講義 卒業論文の書き方。 ④～⑮ 学生による研究発表 後期 ①～⑭ 学生による研究発表 ⑮ 卒業論文口述試験の説明
準備学習	発表者は発表配布資料を作成してくること。
履修上の留意点	発表者は、いかなる理由があっても、無断での欠席・遅刻は認めない。発表者の遅刻・欠席に関しては、単位取得に大きな影響が出ることを覚悟していただきたい。
成績評価の方法	平常点。特に発表時の作成資料や研究の深度、討論への積極的な参加などを考慮する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	特になし。
その他	卒業論文はレポートと違います。「研究」をすることにより、初めて「論文」が書けます。ぜひ研究する楽しさを実感し、良い卒業論文を書いてください。

履修コード	055901
科目名	考古学演習II
担当者名	酒井 清治

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文は4年間の学習の集大成と考え、論文をどのように書いて行くのかを指導する
講義の内容/ 授業スケジュール	最初の2週は論文の書き方について説明する。その後、自分のテーマと関連ある主要論文を読み込み、研究の方向性を決め、テーマに沿った卒業論文の構成作りを行うために、各自のテーマに基づいた研究発表を行い、皆で議論しながら論文としてまとめられるよう指導する。また、博物館・教育委員会などで実物資料を見ながら研究テーマを深めるよう指導する。
準備学習	考古学は実証に基づく学問であるので、現地に行き、実物を見ることにより理解が深まる。また、自分が目指す研究方向に参考となる文献を見つけ、熟読してほしい。
履修上の留意点	発表者は事前に発表する日を知らせるので、準備するとともに、当日発表者は遅刻、欠席をしないこと。欠席した場合は単位が取れないと考えてほしい。また、個人指導もするので、積極的に研究室へ訪ねてほしい。
成績評価の方法	発表要旨の作成と発表の内容を重視する。また、卒論の進行状況を把握するためにも出席および、授業で発表者に質問した回数も重視するので積極的に議論に参加してほしい。
参考書	授業の中で紹介する。
その他	授業はゼミ形式。

履修コード	056101
科目名	考古学演習II
担当者名	寺前 直人

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の提出を到達目標とする。考古学における学術論文は、客観的な資料の提示をふまえた論理展開が不可欠である。また、実測図や分布図など適切な図表を作成する必要もある。さらに先行研究をふまえたオリジナルな学術論文のルールにそった様式で表現しなければならない。これらの点を考慮したうえで、卒業論文作成のための研究の進め方や、論文の書き方などを指導する。
講義の内容/ 授業スケジュール	履修者は、卒業論文の進捗状況に合わせ、研究発表を行う。参加者全員の質疑応答と教員の指導により、よりより卒業論文の作成をめざす。 第1～3回 講義(卒業論文の書き方) 第4～29回 学生による研究発表 第30回 卒業論文口述試験の説明
履修上の留意点	発表者の無断での欠席・遅刻は認めない。
成績評価の方法	平常点。発表内容や質疑、討論への参加度を評価する。
教科書/テキスト	特になし。研究テーマに即して随時紹介。
その他	卒業論文は大学生活の総括です。「研究」の辛苦とそのさきにある知的感動を味わえるようがんばってください。

履修コード	052411
科目名	考古学各説II
担当者名	芝田 幸一郎

講義の到達目標(ねらい)	本講座は「アンデス考古学」を扱うものである。 現在のペルーを中心とする南米の中央アンデス地帯では、我々が世界史の授業などで親しんだ旧大陸の諸文明から影響を受けずに、それに比肩する独自の文明が発展を遂げた。このアンデス文明について、日本では高校までの学校教育でほとんど扱われないこともあり、一部のマスメディア等がふりまく過度に神秘的なイメージを抱く者が少なくない。本講座では、まず前期に通史を学ぶ。その中で、考古学・人類学研究の成果としての基礎知識を得て、学問的根拠のあるアンデス文明像の定着を図る。後期は、アンデス考古学で扱われる諸テーマの中から、他地域・他国の考古学研究にも結びつくものを主に選んで講義する。また、教員自身がペルーで実施している調査・研究の紹介なども行う予定。
講義の内容／授業スケジュール	【前期】 ①～②概論的説明：アンデスの多様な自然環境と様々な時代の主要遺跡について、世界遺産を中心に紹介。③文明形成期Ⅰ：農耕の発達を待たずして登場した最初の神殿（先土器時代）。④文明形成期Ⅱ：巨大神殿群の興亡と世界遺産チャビン・デ・ワンタル。⑤文明の様々な展開：最初の王国モチェ、巡礼と地上絵のナスカ。⑥高地の国家：ワリとティワナク。⑦北海岸の黄金伝統：シカンとチムー。⑧インカの拡大と崩壊。⑨インカの暮らし。⑩スペイン人による征服の後。⑪現代のペルーと古代文明。⑫～⑬海外での考古学：発掘調査と現地社会。⑭まとめとディスカッション。⑮期末試験 【後期】 ①イントロダクション。②～⑭テーマ別講義（戦争、埋葬儀礼、饗宴、巡礼、自然災害、世界システム、リサーチデザインなどのテーマを考えている）。⑮レポートまたは試験。 なお、学生の理解度などにより、授業進度を調整する可能性がある。特定の回に関心がある者は、YeStudyでスケジュール変更の有無を確認すること。
準備学習	下記参考書の関係箇所を目を通す。YeStudy上に添付される参考資料に目を通す。更に関心を持った場合は、授業中の配布プリントで紹介される専門文献へ進む。
履修上の留意点	前期の①②回に含まれる基礎知識は、その後の全講義を理解するために重要である。 【受講制限について】2010年度「考古学各説Ⅰ」を受講し、合格した者は、2011年度「考古学各説Ⅱ」を履修できない。
成績評価の方法	基本的には通常点＋試験で、総合的に評価する。通常点とは、出席状況と、アンケート類を除いた授業内の提出物から成る。履修者数が少なければ、毎回出席をチェックする予定であり（どうするかは前期第1～2回の授業で決める）。 前期末は試験（50%）、後期末にはレポートないし試験（50%）を実施する（どちらにするか後期初頭までに決定し、告知する）。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しない。授業に出席し、ノートをとること。なお、理解を深めるため、また欠席回の内容を補うための参考書は、以下に紹介しておく。
参考書	【前期】細谷広美編著『ペルーを知るための62章』明石書店(2004年、2000円)が、講義内容全体をカバーしており、かつ最も簡潔で易しい。他には、やや専門的になるが、関雄二『アンデスの考古学』同成社(1997年、2800円)が、ほぼ全体を詳細にカバーする。関雄二『古代アンデス—権力の考古学』京都大学学術出版会(2006年、1800円)は、④⑤回の内容に詳しく、またアンデス考古学研究の最前線を垣間見ることが出来る専門書である。大貫良夫『アンデスの黄金—クントウル・ワシの神殿発掘記』中公新書(2000年、880円)が、④⑫⑬回の講義内容の参考となり、読み物としても面白い。 【後期】レンフルー&バーン『考古学：理論・方法・実践』東洋書林(2007年、9500円)など。 その他は適宜紹介する。高額なものや現在購入困難なものも含まれるので、図書館を大いに活用して頂きたい。
その他	YeStudyを活用する： - 授業スケジュールの変更や、後期の講義テーマの選択、期末試験等に関する連絡は、授業内とYeStudy上にて告知する。 - 参考資料の一部は、YeStudy上にアップロードする。

履修コード	052611
科目名	考古学各説IV
担当者名	三宅 俊彦

講義の到達目標(ねらい)	北アジアの考古学について講義を行う。 前期は青銅器時代から古代の時期の講義を行う。モンゴル高原では青銅器時代から、匈奴・突厥といった歴史時代の遊牧騎馬民族国家まで、様々な考古文化が残されている。それらを概観し、ユーラシア東部の歴史に残した影響を探る。 後期はモンゴル時代を中心にあつかう。担当者は2001年から毎年モンゴル国において、チンギス・カンの本拠地が置かれていたアウラガ遺跡での発掘調査に従事している。その発掘の最新情報を紹介しながら、モンゴル帝国の強大化を考古学的に明らかにしていく。
講義の内容／授業スケジュール	前期は青銅器時代から突厥・ウイグルくらいまでの考古学文化を概観する。遊牧民とはどんな人々か（第1回）、北アジアの青銅器時代（第2～6回）、匈奴（第7～10回）、突厥・ウイグル（第11～15回）などを予定している。 後期はモンゴル帝国の考古学文化を、アウラガ遺跡での発掘調査をメインに紹介したい。モンゴル族の故地とその考古文化（第16～18回）、チンギス・カンの登場と関連遺跡（第19～20回）、アウラガ遺跡の発掘調査をその成果（第21～26回）、チンギスの末裔たちの遺跡（第27～30回）などを予定している。
準備学習	北アジアの歴史的な流れについて、事前に把握しておけば、授業内容をより深く理解できよう。
履修上の留意点	欠席をしないこと。3分の2以上出席していない場合、単位を取得できない。 私語を慎み、携帯電話を使用しないこと。 授業に積極的な姿勢で臨むこと。
成績評価の方法	出席状況・授業態度ならびにレポートによって成績を評価する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。 また、北アジアの考古学関連の書籍は、近年多数発行されている。各自で探してみること。
その他	授業は講義が中心となる。できるだけプリントやスライドなどを用い、内容の理解を深められるよう努めたい。

履修コード	043531
科目名	考古学基礎演習
担当者名	寺前 直人

講義の到達目標(ねらい)	考古学はモノ(遺跡・遺物)から、過去の人類の歴史を明らかにする学問です。歴史学という点では、高校までの日本史や世界史と同じですが、モノから客観的な情報をひきだすための知識と技術を学ぶ必要があります。この演習では、考古学に関する情報を集める方法、集めた情報の整理方法を学びます。まず、実際の遺跡や博物館の展示品の観察方法や論文や書籍の探し方、読み方などを学びます。次に、資料に基づく自分の理解や考えを第三者に伝えることを実践し、プレゼンテーション技術と討論の仕方を学びます。
講義の内容／授業スケジュール	第1～5回：「歴史科学」としての考古学 第6～10回：情報の検索・調査方法 第11～25回：口頭発表とレジュメの作成 第25～30回：論文・レポートの読み方と書き方
準備学習	発表・レポートは入念に準備して臨むこと。
履修上の留意点	講義中の私語は控えるように。真剣に聞いている者の迷惑になる者は退席を願うので、要注意。私語厳禁。真剣に聞いている者の迷惑になる行為を行う者には退席を願う。口頭発表の際には積極的な発言をしてください。
成績評価の方法	発表及び中間レポートと、出席などによる評価。
教科書／テキスト	随時紹介。
参考書	とくになし。

履修コード	045601
科目名	考古学史
担当者名	小柳 美樹

講義の到達目標(ねらい)	日本考古学研究の歴史を通して、研究の方法や論理構築の仕方、議論・論争の展開について学ぶ。また近年の考古学の発見が、研究史に照らし合わせれば、どのような意義を有しているのかも確認する。そして、自己の研究への姿勢、理念、方法論の確立等を構築するための一助となることを望む。
講義の内容／授業スケジュール	日本考古学の歩みを発見・発掘調査・研究者列伝・論争などを軸に論じる。 前期 ①～③ 日本考古学のはじまり・江戸時代の考古学 ④～⑥ 近代科学と考古学（大森貝塚の発掘・外国人の研究） ⑦～⑨ 明治時代の考古学（坪井正五郎・コロボックル論争） ⑩～⑫ 浜田耕作の考古学研究（京都大学の考古学研究） ⑬～⑮ 大正時代の考古学（鳥居龍藏など） 後期 ①～③ 森本六爾と東京考古学会 ④～⑧ 縄文時代研究史（山内清男など） ⑨～⑫ 小林行雄の考古学研究（弥生時代・古墳時代・鏡・邪馬台国） ⑬～⑮ 旧石器時代研究史（岩宿遺跡の発見・前期旧石器問題・捏造問題）
履修上の留意点	限られた時間内では全てを言及することができないため、授業の中で取りあげられた文献や調査報告書を自主的に積極的に目を通し、博物館などで実物資料を観察して復習して欲しい。授業の理解度や興味の深さが一層増すはずである。 学生諸君には考古学という枠組みをこえたさまざまな領域に興味を持つことを期待したい。
成績評価の方法	夏季休暇中にレポート作成を課す（提出によって学年末試験を受けることができる条件とする） 学年末の試験（筆記試験）が成績評価の大部分を占める。 出席状況はあくまで参考程度。
教科書／テキスト	なし（レジュメを準備し、授業時に配布している）
参考書	授業時に随時紹介していく

履修コード	045911
科目名	考古学実習（実測）
担当者名	杉山 浩平

講義の到達目標(ねらい)	考古学を勉強する上で、各種出土品を図化し資料化することは必須である。本授業では、主に土器と石器を用いて、資料の観察と図化するための方法を学習する。そして、卒業論文作成時に役立つように図版の作り方（トレースやレイアウト作業）についても説明をする。
講義の内容／授業スケジュール	前期では、図化する必要性について説明を行い、資料を観察して特徴・製作技術について解説が出来るようになる。その後、実測方法を習得する。後期では、実測や拓本を行い、実測図面の清書（トレース作業）および図版作りを行う。資料の観察・実測は、授業時間内では終わらないと思われるので、宿題として次の授業までに終わらして授業時に解説等を行う。結果として出来るだけ多くの資料に触れられるようにする。
履修上の留意点	資料の説明や観察や実測の方法を説明するので、欠席はしないこと。また、宿題を行うこと。
成績評価の方法	授業への取り組みと提出された課題に基づく
教科書／テキスト	授業中に指示する。
参考書	授業中に指示する。

履修コード	045701
科目名	考古学実習（写真）
担当者名	塚原 明生

講義の到達目標(ねらい)	考古学における、発掘現場写真撮影出土遺物写真撮影について基礎より学ぶ。
講義の内容／授業スケジュール	写真撮影の為のカメラ機材及び写真用品の解説とその使用方法、用途や目的に応じたその利用方法を写真専門用語と共に基礎より学び、撮影実習暗室実習を通して写真記録の重要性を考える。
履修上の留意点	受講生は実習を円滑に進める為、原則的に35mm判一眼レフカメラを所持する事を条件とする。（コンパクトカメラは不可）
成績評価の方法	課題写真提出、出席点（どちらが欠けても評価の対象外とする）
その他	前期に講義を中心とし撮影実習（屋外）後期に撮影実習（屋内）及び暗室実習を行なう。

履修コード	046101
科目名	考古学実習（情報）
担当者名	小柳 美樹

講義の到達目標(ねらい) この授業は、パソコンを利用しながら考古学上の調査方法および整理技術、研究を進めていく際に必要な基礎知識や考え方を理解していくものである。

講義の内容／授業スケジュール 基本的なパソコンソフトである文章作成機能、数値統計機能、図画作成、写真加工機能、インターネット環境などを使用し、与えられた課題を処理していく。そのため、授業時間の大半は、パソコンを活用しながらの作業になる。

- 前期
 ①～⑤ インターネットによる資料・情報収集
 ⑥～⑩ パワーポイントを使った発表資料の作成
 ⑪～⑮ 発表とその反省によるパワーポイントの修正
 後期
 ①～⑤ フォトショップを使った提示資料の作成
 ⑥～⑫ イラストレーターを使った考古資料トレース図の作成
 ⑬～⑮ データベースのグラフ化（エクセルを使用）

*なお、受講者の希望によっては、講義内容を臨機応変に変更し、能力向上と学習目標の達成を図りたい。

履修上の留意点 履修する学生はパソコン利用が初心者であるものを優先したい。すでにパソコンに慣れている学生には物足りなく感じてしまう恐れがある。ご注意願う。課題は考古学に関するものである。そのため、基礎的な考古学用語などを把握している学生が望ましい。

成績評価の方法 出席状況（50%）。課題を期日までに全て提出していること（50%）。成績は課題提出によるので、筆記試験は行わない。

教科書／テキスト 指定する教科書・参考書はない。

その他 開講時までに学内パソコン利用の登録を済ませておくこと。

履修コード	045801
科目名	考古学実習（測量）
担当者名	古庄 浩明

講義の到達目標(ねらい) 発掘調査に必要な測量技術を習得する。この授業は、2月に実際の古墳を測量し、報告書としてまとめ上げるといふ、実践的な授業です。

講義の内容／授業スケジュール 測量機器を使って野外で測量活動をおこなう。また、2月に3週間ほど実際の遺跡の測量調査をおこなう。第1回：測量とは 教室での講義。第2～4回：BMの移動。第5～8回：トータルステーションの使い方。第9～15回：トータルステーションの立て方実習。第16回以降トータルステーションを使った校内での測量実習。最終回：測量実習の試験。2月の3週間：実際の古墳での測量とその報告書作成作業

準備学習 下記のブログにて、講義ノートなどの参考資料を公開している。

履修上の留意点 野外での作業を伴うので、作業しやすい服装で受講すること。

成績評価の方法 「出席」と「2月におこなう遺跡測量へ参加できるかどうか」を最も重視する。また、一定の技術を習得したか授業中に試験を行う。

教科書／テキスト プリントを配布。下記のブログにて必要な資料は公開しています。各自ダウンロードしてください。

参考書 野帳（150円程度）・コンベックス・電卓（ともに100円ショップで売っているものでよい）が必要。どのようなものを買ったほうが良いか授業中に指示します。

その他 男女とも野外作業に適した服装。雨天でも通常の授業では屋根のある場所で測量実習を行う。

関連リンク <http://wacoffee.blogspot.com/>

履修コード	052811 052812
科目名	考古学特講II
担当者名	酒井 清治

講義の到達目標(ねらい) 5世紀初頭に朝鮮半島から伝わった須恵器は、古墳時代の和政権あるいは各地の首長層と密接な関連があり、古墳時代あるいは古代を考える重要な土器である。この須恵器は全国各地で詳細な編年が出来ており、考古学的な年代決定の重要な資料となっている。また、生産跡である窯跡や工房が発見されており、消費地との需給関係が分かる。さらに須恵器生産は古墳時代においてきわめて政治的に生産が開始されており、須恵器生産跡から生産体制を解明する材料となっている。当時の手工業史としての須恵器生産史や流通史を解明することにより、須恵器から古墳時代、古代を考える。また、朝鮮半島の土器生産と比較し、土器から見た生産体制の違いを考える。

講義の内容／授業スケジュール 須恵器や窯跡に関する論文を紹介しながら、須恵器生産・流通・歴史的背景を概観する。(1～3)で焼き物の歴史の中で須恵器とは何かを考える。(4～7)で製作技法について、(8～10)で生産技術を、(11～13)で須恵器の源流について、(14～16)器種と用途、(17～19)須恵器編年、(20～23)年代論、(24～26)須恵器の地域色、(27～29)須恵器の役割、(30)まとめ

準備学習 博物館などで授業に関する資料を見るようにすること。

履修上の留意点 遅刻をしないこと。授業内容は考古学専攻生を対象とした特講の授業であるため、やや難しいが解説を加えるようにする。

成績評価の方法 レポートと出席など平常点

教科書／テキスト 授業の中で適宜紹介するが購入する必要はない。資料を配付する。

参考書 中村浩『須恵器』（ニュー・サイエンス社）
 中村浩『和泉陶器窯の研究』（柏書房）
 中村浩『泉北丘陵に広がる須恵器窯』（新泉社）
 山田邦和『須恵器生産の研究』（学生社）

その他 授業はOHPを利用して講義するが、遺物の観察法についても実物資料を見ながら解説する。

履修コード	052921 052922
科目名	考古学特講IV
担当者名	小林 謙一

講義の到達目標(ねらい) 文字史料のない先史時代はもとより、歴史を構築するためには、物質文化による再構成の手段である考古学的手法が必要である。考古学研究を志す者は当然だが、歴史研究を志す者にとっても必要不可欠と言える考古学的研究法を理解してもらう目的で、日本先史時代である縄紋時代の土器研究、集落研究を中心に「縄紋時代の考古学」を講義する。同時に炭素14年代測定法など、自然科学的な研究法についても概説し、考古学的課題への応用を議論する。具体的なケーススタディは日本先史時代を中心とするが、必要に応じ近世・近現代考古学研究まで紹介する。

講義の内容／授業スケジュール (1)日本先史考古学概論、(2)縄紋時代概論(3-4)縄紋時代考古学史、(5-7)縄紋研究方法論 型式・層位・発掘、(8)縄紋集落遺跡を題材とした遺跡調査法、(9-10)年代測定法・自然科学的分析、(11-13)縄紋時代土器研究法、(14-15)貝塚・低湿地遺跡研究、(16-19)縄紋セトルメント研究と縄紋時代の地域交流、(20-21)縄紋社会論への炭素14年代測定の利用、(22-27)旧石器時代～縄紋時代の時期区分・縄紋・弥生・古墳年代論、近世・近現代考古学、(28-30)先史考古学研究の応用、先史考古学の課題・まとめ

準備学習 博物館見学や概説書などによって、旧石器時代、縄紋時代、弥生時代について、予備的な知識を習得しておいて欲しい。

履修上の留意点 博物館見学や、夏期休暇中に発掘見学をおこなう可能性があるが、実施するかどうかは講義の実施状況により、受講者とも相談の上決めたい。その場合には交通費等の実費負担がある。

成績評価の方法 夏期レポート(40%)・前期後期の小テスト(40%)・ミニレポートなど平常点(20%)の総合評価。なお夏期レポートとして、参考書にあげる文献一つを選び関連するテーマをまとめて貰う課題を課す。

参考書 小林謙一『縄紋社会研究の新視点―炭素14年代測定の利用―』六一書房(2008年新装版)
小林謙一編『縄紋集落研究の新地平(続)―竪穴住居・集落調査のリサーチデザイン―』考古学リーダー15、六一書房(2008年)
小林謙一『縄紋文化のはじまり―上黒岩岩陰遺跡』新泉社(2010年)

その他 講義で紹介する発掘調査事例については、下記のホームページを参照

関連リンク <http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~atamadai/>

履修コード	053021 053022
科目名	考古学特講VI
担当者名	寺前 直人

講義の到達目標(ねらい) 日本列島における武器の出現とその歴史的意義を論じる。日本列島において多様な武器が登場する弥生時代の資料をおもに取り上げる。比較のために縄文時代や古墳時代の資料などを取り上げることもある。実証的な遺物研究を中心にこれまでの研究史との比較検討し、多様な武器が用いられた社会的背景を理解する。そこから、地域ごとに異なる弥生社会が形成されていたことを学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール

- 第1回 講義の概要説明
- 第2～4回 武器をめぐる考古学的議論
- 第5～8回 武器の伝来(磨製石鏃・石製短剣の登場と展開)
- 第9・10回 弥生時代開始期における武器の特質
- 第11～13回 金属器の導入とその影響
- 第14・15回 金属器時代の武器
- 第16～18回 石製短剣と社会
- 第19～23回 武器の地域性(日本列島における武器の多様性とその背景)
- 第24～27回 武器と儀礼
- 第28～30回 武器と社会
- 第30回 今後の展望

履修上の留意点 私語厳禁

成績評価の方法 平常点と年数回のテスト

教科書／テキスト とくにないが毎回資料を配布する。

参考書 寺前直人『武器と弥生社会』大阪大学出版会 2010年

履修コード	053041 053042
科目名	考古学特講VIII
担当者名	矢野 和之

講義の到達目標(ねらい) 近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学、歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画または歴史を生かしたまちづくりを担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容／授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
- ・国際憲章
- ・日本建築史(古代)概要
- ・遺構とその上部構造体の復元
- ・保存計画概論
- ・保存科学、保存工学概論
- ・まちづくりと文化財
- ・計画策定の実務
- ・国内の事例
- ・海外の事例、文化財保存の国際機関、世界遺産

以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点 特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法 試験、演習提出物

教科書／テキスト コピー配布

参考書 適宜指示

その他 講義は、スライド、ビデオ(保存工事の記録等)を使用する。

履修コード	046201
科目名	考古発掘実習
担当者名	酒井 清治 飯島 武次 寺前 直人

講義の到達目標(ねらい)	考古学の基本は発掘した資料から人類の歴史を考えることであるが、発掘技術の優劣により発掘資料の情報量も異なってくる。発掘現場で対応できる発掘技術の習得と考古学に対する考え方を養うことを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。文化財とは何か(1)、埋蔵文化財とは何か(2・3)、発掘調査とは(4～8)、発掘調査の方法(9～15)、発掘調査と文化財保護法(16～18)、整理作業と報告書作成技術(19～22)
準備学習	発掘調査で出土する遺物がどのような資料か時代かを判断することができるように、博物館を見学して考古資料を見ることを勧める。
履修上の留意点	夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが通例である。従って履修者は、博物館実習等との関係をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後に計画を作成すること。授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席、遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。
成績評価の方法	成績評価は出席点と平常点および発掘実習の行動と発掘日誌などを総合して判断する
教科書／テキスト	授業の中で資料を配付する。
参考書	岩崎卓也『考古学調査ハンドブック1 野外編』(雄山閣)3150円
その他	通常は講義で、夏休みに野外発掘実習を行う。予定では8月に日本で、9月に中国での発掘を行う予定であるが、場所は未定である。なお発掘は日本・中国どちらかの発掘を選択してもらう。

履修コード	046401
科目名	古文書研究I
担当者名	廣瀬 良弘

講義の到達目標(ねらい)	古代から中世にかけての古文書・古記録などについて、その読解力の習得に加え、歴史資料に関する知識と意識を高めることを目的とします。歴史研究は史料に基づきこれを分析・評価し、実証して行くという過程がありますが、そのなかで、様々な情報を含んでいる古文書の読解能力を身につけることは不可欠なことです。前期では古文書の概要と形式を把握した後、戦国期の大名文書について、読みながら内容分析を行なう。後期には平安・鎌倉期、南北朝期、室町期の文書を読解しながら、古文書全般について対応する力や、歴史的事実を明らかにする能力を養いたいと考えています。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1・2) 古文書の概要と形式 (3～8) 戦国大名文書に親しむ (9～13) 天下人(信長・秀吉・家康)の書状を読む (14～16) 古代の文書を読む (17～19) 鎌倉時代の文書を読む (20～22) 室町期の文書を読む (23～25) 戦国期の文書を読む (26～28) 記録・金石文・奥書などを読む (29～) まとめ(但し、受講生の習熟度に応じて変更することがあります)
履修上の留意点	古文書の読解力は、文書に慣れ親しむことが必要です。予習・復習はもちろんであるが、日頃から博物館の展示などを通じて古文書などの歴史資料に接してほしいと思います。
成績評価の方法	年度末の定期試験の結果と受講者の提出物(例えばレポートなど)の内容に依拠して行います。それに授業の出席状況を加味します。
教科書／テキスト	史料のプリントを適宜配布します。
参考書	必要に応じて講義において紹介します。

履修コード	046501
科目名	古文書研究II
担当者名	湯浅 隆

講義の到達目標(ねらい)	江戸時代に作成された古文書・記録類、典籍などの版本(以下、江戸時代史料と記します)を対象として、その読解能力の習得をめざす、入門者対象の科目です。文書の形を知ること、文字を解読すること、そのうえで文言・様式から、歴史事実を読みとる力の養成を目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	まず、江戸時代史料に幅広く接するようにします。江戸時代の表現に慣れることで、文脈から判読困難な文字を推定できるようにしていきます。(1～5) 武家の史料[領地宛行状、大名・旗本の家政、高札など]、(6～10) 町方の史料[沽券状、借用証文、引札など]、(11～15) 村方の史料[年貢割付状、村明細帳など]、(16～18) 寺社の史料[往来手形、寺請証文など]、(19～22) かな文字・木版刷、(23～30) まとまりをもった内容の文書を読みます。
準備学習	授業でつかうテキストは、プリントで配付します。事前に、可能な限り解読してから授業に臨むように心がけてください。
履修上の留意点	文書読解力向上の捷径(近道)は、当該時代に多用された言い回しに慣れることです。したがって、「日本史史料講読Ⅲ」などにより、江戸時代史料(活字)講読科目を修得済み、もしくは同時並行で履修していることが望まれます。
成績評価の方法	文字を解読し内容を把握できるか否か、それだけです。それは、学年末の試験などをとおして判定します。
教科書／テキスト	教材として、史料のプリントを配付します。
参考書	その都度、提示します。
その他	授業は、輪読形式となります。江戸時代史料には、歴史学がこれまでに蓄積してきた成果の総量を遥かに超える豊富な事実が詰め込まれています。解読の扉を自ら開き、さらに広げていくことで、江戸時代への興味が限りなく広がっていくきっかけになることを期待しています。

履修コード	053101 053102
科目名	西域美術史
担当者名	松平 美和子

講義の到達目標(ねらい) シルクロードの十字路アフガニスタンとペルシアを中心に東西美術工芸の交流を考えることを目的とします。古代から東西交流の要衝として栄えたアフガニスタンは、1979年の旧ソ連軍侵攻に続く内戦のため荒廃し、その貴重な遺跡や遺宝は破壊され、あるいは行方不明となりました。失われた遺跡や遺宝を画像で再現し、その豊かな芸術の歴史と最新情報を検討します。後期は西アジア芸術をリードしてきた古代ペルシアの装飾性の強い美術を時代に沿って見ていきます。また、年間を通して美術館や美術展の情報を提供し、その美術展カタログ(図録)の魅力と活用法についても考えてみたいと思います。

講義の内容／授業スケジュール 前期 (1)美術展とカタログ(図録)について、(2)アフガニスタンの歴史と遺宝、(3)ラピスラズリの交流、(4~5)パーミヤンの芸術、(6~7)ベグラムの遺宝、(8)アフガニスタンのローマングラス、(9~10)ハッタの遺跡、(11~12)ガンダーラの芸術、(13~14)アフガニスタン遺宝の最新情報、(15)まとめ
後期 (1)日本におけるペルシア美術展、(2~3)古代ペルシアの芸術、(4~5)アケメネス朝ペルシアの芸術、(6~9)ササン朝ペルシアの芸術、(10)ソグドの芸術、(11~14)イスラム芸術、(15)まとめ

履修上の留意点 講義中に紹介するシルクロード関係の美術展をはじめ、各種の美術展へ行く機会を持って欲しい。
成績評価の方法 前期のレポートとテスト、後期のレポートとテストに出席状況を加味して総合的に評価する。
教科書／テキスト 松平美和子著『シルクロード美術鑑賞への誘い』(芙蓉書房出版、2007)2800円 (ISBN 978-4-8295-0401-7)
参考書 松平美和子編『シルクロード美術展カタログ内容総覧』(芙蓉書房出版、2009)
その他 レポートの提出期限は厳守すること。

履修コード	043601
科目名	史学概論
担当者名	佐々木 真

講義の到達目標(ねらい) 歴史学という学問的営みの特質、歴史学の対象とその範囲、歴史研究と叙述との関係などの解説を通じ、歴史学とはどういう学問かということを理解し、自身が歴史研究を行う場合の方法論を構築することを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール 全体を以下の3部で構成する。
1. 近代歴史学の成立と展開
19世紀における近代歴史学の誕生からはじめ、その後の歴史学の流れについて概説する。
1)ランケと近代歴史学の成立
2)ロマン主義と歴史観の変化
3)ヘーゲルとマルクス
4)19世紀後半の実証主義
5)アナール学派から現代歴史学へ
2. 歴史学のいとなみ
上記の史学史を前提として歴史学とはどのような学問であるかを解説する。
1)歴史学の対象
2)歴史学研究の方法(史料批判)
3)歴史学と歴史叙述
4)歴史認識の主観性と客観性
5)歴史法則に関する問題
6)歴史における個別性と一般性
3. 現代歴史学の課題
現在歴史学は危機的状況にあるとも言われている。第3部では歴史学に対して現在行われている問題提起を紹介する。
1)構造か事件か?
2)歴史学の社会的有用性
3)言語論的転回と歴史史料
4)物語論と歴史学

準備学習 準備学習は特に必要ない。むしろ、講義の中で紹介する文献をなるべく多く読み、歴史学についての見識を広げてほしい。
履修上の留意点 抽象的な議論をする場合も多いので、講義をよく聴き、その場で理解するように努めること。
成績評価の方法 前期と後期に各1回ずつ実施する試験により評価する。
教科書／テキスト 教科書は特に指定しない。
参考書 参考文献については、必要に応じて紹介する。

履修コード	044111
科目名	西洋史概説
担当者名	井上 文則

講義の到達目標(ねらい) 古代ギリシア、ローマ史を概説する。本講義の到達目標は、古代ギリシア、ローマ史を学ぶために必要な基礎的知識の獲得にある。

講義の内容／授業スケジュール (前期)
はじめに(1回)、古代ギリシア史(2~9回) ヘレニズム史(10~15回)
(後期)
古代ローマ史(15回)

準備学習 高校卒業程度の世界史の知識を復習しておくこと。
成績評価の方法 成績は学年末試験により判定する。
教科書／テキスト 教科書は特に指定しない。
参考書 参考書等は講義中に、必要に応じて紹介する。
その他 授業は講義形式で行い、随時参考資料を配布する。

履修コード	054301
科目名	西洋史学演習I
担当者名	佐々木 真

講義の到達目標(ねらい)	西洋近代史を対象として卒業論文を書こうとする学生のための演習。授業での個別報告を通じて、資料を収集する能力や論理的に物事を考察する力を養い、次年度の卒業論文執筆に必要な能力の獲得をめざす。
講義の内容／ 授業スケジュール	前半は、西洋近代史に関する統一テーマを設定し、そのテーマに沿った報告を行うことを中心とする。後半には次年度に執筆する卒業論文のテーマに関する報告を行う。前半のテーマについては、授業開始時に話し合っ決定する。スケジュールは以下の通り。 (1) ガイダンス (2-3) 図書館ガイダンス (3-4) 文献の調査などについて (5) 統一テーマの概論 (6-18) 個別報告 (19) 卒論について (20-30) 卒業論文構想の報告
準備学習	前半のテーマ報告に関しては、選択したテーマに関する文献を収集し、報告内容をまとめること。後半の卒業論文に関する報告でも、選択したテーマの文献収集とその講読が不可欠となる。
履修上の留意点	自分の報告をきちんと行うのは当然だが、他人の報告もよく聞き、討論に積極的に参加すること。
成績評価の方法	成績は授業中の各自の発表内容に出席を加味して決定する。授業に主体的に参加することが重要なので、一定時間以上授業を欠席した者は、その時点で不可とする。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて一覧を配付する。

履修コード	054711
科目名	西洋史学演習I
担当者名	佐々木 真

講義の到達目標(ねらい)	西洋古代史を対象として卒業論文を書こうとする学生のための演習。授業での個別報告を通じて、資料を収集する能力や論理的に物事を考察する力を養い、次年度の卒業論文執筆に必要な能力の獲得をめざす。
講義の内容／ 授業スケジュール	前半は、西洋古代史に関する統一テーマを設定し、そのテーマに沿った報告を行うことを中心とする。後半には次年度に執筆する卒業論文のテーマに関する報告を行う。前半のテーマについては、授業開始時に話し合っ決定する。スケジュールは以下の通り。 (1) ガイダンス (2-3) 図書館ガイダンス (3-4) 文献の調査などについて (5) 統一テーマの概論 (6-18) 個別報告 (19) 卒論について (20-30) 卒業論文構想の報告
準備学習	前半のテーマ報告に関しては、選択したテーマに関する文献を収集し、報告内容をまとめること。後半の卒業論文に関する報告でも、選択したテーマの文献収集とその講読が不可欠となる。
履修上の留意点	自分の報告をきちんと行うのは当然だが、他人の報告もよく聞き、討論に積極的に参加すること。
成績評価の方法	成績は授業中の各自の発表内容に出席を加味して決定する。授業に主体的に参加することが重要なので、一定時間以上授業を欠席した者は、その時点で不可とする。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて一覧を配付する。
その他	4年次に西洋古代史をテーマとして卒論を書こうとする学生は、必ずこの授業を受講すること。

履修コード	054401
科目名	西洋史学演習I
担当者名	伏島 正義

講義の到達目標(ねらい)	まず第1に、当該演習Iは4年次に課される卒業論文の作成のための第1次準備段階であることからして、各人は自己の卒論テーマを具体的に決定し、その研究に着手しなければならない。したがってそのための文献、史料の収集方法に習熟することである。第2に、受講生にとって共通となる文献を輪読し、相互の意見交換などにより、歴史研究を深める機会とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	まず各自の設定した卒論のテーマに添って、文献、史料の収集と読解に努めることを原則、前提とする。(1-2) 年間学習計画に関するガイダンス。(3-15) 受講生の共通となる論文、専門書などの文献を、とりわけ西洋史研究では依然として共通語の1つである独語、仏語、英語のいずれかで書かれた文献を、発表などを交えながら輪読する。後期には(16-30)前期から各人の進めてきた卒論のテーマに関する研究の成果を発表し、受講生は相互に質疑応答する。なお、都合が付くならばいずれかの時機に、西洋史研究にとって有益な、直に目にするのできる資・史料を所蔵あるいは展示する文化施設等を訪れたい。
履修上の留意点	卒論のテーマに該当する言語に習熟することは言うまでもなく、当該演習の共通言語にも読解力をつけておくことが必要である。研究文献、史料の検索、収集、さらにその解読には多大の時間を必要とするものである。したがってそのための気概が期待される。
成績評価の方法	演習にいかにか積極的に且つ熱心に参加しているかが基本的な基準である。出席の回数及び研究レポートの提出により、決める。
教科書／テキスト	共通するテーマ及びテキストは受講生と相談し、決める。
参考書	必要に応じて随時指摘する。

履修コード	055701
科目名	西洋史学演習II
担当者名	佐々木 真

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の報告を中心として授業を進め、レベルの高い卒業論文を完成させることを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期に1回、後期に1回それぞれ卒業論文の内容についての報告を行う。 (1) ガイダンス (2-30) 個別報告
準備学習	前後期の報告に際しては、文献の収集とその解読、論理的な報告内容の作成などを確実にすること。
履修上の留意点	演習Iの単位を取得していない者の履修は認めない。
成績評価の方法	成績は授業中の各自の発表内容に出席を加味して決定する。演習科目では受講生の授業への積極的な参加が肝要となり、出席はあくまでも必要条件ではないことに留意すること。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

履修コード	055801
科目名	西洋史学演習II
担当者名	伏島 正義

講義の到達目標(ねらい)	演習Iで進めてきた卒論のテーマに添った研究を最終的に卒業論文として完成させることが最大のねらいである。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習Iの段階で読むことのできなかった文献の入手と解説に全力を尽くすとともに、これまでの研究上の不備な点を再検討し、万全を期す。(1-2)年間学習計画に関するガイダンス。(3-30)まず各人の個別研究を検討する。次に不備な点を補いつつ、各人が進めてきた研究の進捗状況、成果を順次発表する。受講生は相互に質疑応答し、研究の改善を目指す。なお、都合が付けばいずれかの時機に、西洋史研究にとって有益な、直に目にするのできる史・資料を所蔵あるいは展示する文化施設等を訪れたい。
履修上の留意点	上記の諸点は夏期休暇の期間内に履行し、ほぼ完了することが望ましい。なぜならば、卒業後就職しようとする者にとっても、さらに上級の大学へ進学しようとする者にとっても当該演習IIの4年生はなすべきことはあまりにも多く、したがって忙殺のため当初掲げたさまざまな課題を十分に満足することのできなかった例をこれまで少なからず見てきたからである。なお、演習に出席することは当然であるが、万一就職活動その他の理由により欠席する場合は、必ずその理由を報告していただきたい。
成績評価の方法	演習にいかにか積極的に且つ熱心に参加しているかが基本的な基準である。出席の回数及び卒論のテーマに関する研究発表により評価する。
教科書／テキスト	各人の研究テーマに副って紹介します。
その他	他人(教師)による評価はもとより、自身にとっても、大学生活の、最後にして最大の記念碑となるような卒業論文を作成すべく、心がけてください。自身が心をこめて自身におくった贈り物ほど、いとおしく、尊いものはない。

履修コード	056211
科目名	西洋史学演習II
担当者名	伏島 正義

講義の到達目標(ねらい)	演習Iで進めてきた卒論のテーマに添った研究を最終的に卒業論文として完成させることが最大のねらいである。この演習IIは大城道則先生の代講である。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習Iの段階で読むことのできなかった文献の入手と解説に全力を尽くすとともに、これまでの研究上の不備な点を再検討し、万全を期す。(1-2)年間学習計画に関するガイダンス。(3-30)まず各人の個別研究を検討する。次に、不備な点を補いつつ各人が進めてきた研究の進捗状況、成果を順次発表する。受講生は相互に質疑応答し、研究の改善を目指す。なお都合が付けばいずれかの時機に、西洋史研究にとって有益な、直に目にするのできる史・資料を所蔵あるいは展示する文化施設等を訪れたい。
履修上の留意点	上記の諸点は夏期休暇の期間内に履行し、ほぼ完了することが望ましい。なぜならば、卒業後就職しようとする者にとっても、さらに上級の大学へ進学しようとする者にとっても当該演習IIの4年生はなすべきことはあまりにも多く、したがって忙殺のため当初掲げたさまざまな課題を十分に満足することのできなかった例をこれまで少なからず見てきたからである。なお、演習に出席することは当然であるが、万一就職活動その他の理由により欠席する場合は、必ずその理由を報告していただきたい。
成績評価の方法	演習にいかにか積極的に且つ熱心に参加しているかが基本的な基準である。出席の回数及び卒論のテーマに関する研究発表により評価する。
教科書／テキスト	各人の研究テーマに副って紹介します。
その他	他人(教師)はもとより、自身にとっても、大学生活の、最後にして最大の記念碑となるような卒業論文を作成すべく、心がけてください。自身が心をこめて自身におくった贈り物ほど、いとおしく、尊いものはない。

履修コード	051001
科目名	西洋史各説I
担当者名	庄司 啓一

講義の到達目標(ねらい)	アメリカ合衆国の歴史を学習する意義について アメリカ合衆国について情報は氾濫している。それは日本と政治・経済・文化などの分野において最も密接な関係がある国だからである。そればかりではない。アメリカは世界最強の軍事・経済・文化帝国であり、世界のあらゆる出来事に強い影響を与えている。しかしながら、アメリカ合衆国の全体像、その基本的な性格を理解するには、その歴史に遡らなければならない。「アメリカ史」を日本の若者はどのようにして学んできたのだろうか。日本の若い人々にとり生活の一部となっており、わざわざ勉強しなくてもいい、と考えられていないだろうか。 アメリカはヨーロッパの植民地として歴史がはじまり、原住民であるインディアンを追い払いながら、ヨーロッパから多様でたくさんの人々を受け入れてきた「移民国家」である。黒人はアフリカ大陸から強制的に奴隷として連行されてきたのであり、決して自由な移民ではない。また、アジアからも中国、日本、フィリピンなどからの移民は人種・民族的な差別を体験しながらアジア系アメリカ人としてのアイデンティティを模索している。近年はアジア、ラテン・アメリカなどから「不法移民」の流入も政治問題となっている。このような世界各地の人々が自らを「アメリカ人」として自己認識するには長い歴史的時間と葛藤が必要であった。 世界の辺境の地に植民地として歴史がはじまったアメリカ合衆国が世界最大の工業国家に成長し、世界に君臨するようになった。しかしその歴史的な限界をも露呈するようになった今日、アメリカの歴史の基本線を勉強することは、日本の過去・現在・未来を真剣に考えようとする人にとって大切なことだと考える。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) アメリカ史を学ぶ意義について (2-8) さまざまなアメリカ人 (9-15) 国民統合の制度と文化 (16-20) 19世紀のアメリカ (21-25) 20世紀のアメリカ (26-30) 第二次世界大戦後のアメリカ
履修上の留意点	日常的にアメリカに関する新聞・雑誌・TVなどにアクセスするように心がけること。新大統領のオバマ政権の特徴なども調べると良いでしょう。
成績評価の方法	中間、学年末試験と授業内でのビデオを見てのレポート提出
教科書／テキスト	有賀・油井編『アメリカの歴史』有斐閣
参考書	エリック・フォナー、横山ほか訳『アメリカ自由の歴史上、下』岩波書店

履修コード	051201
科目名	西洋史各説III
担当者名	長谷川 岳男

講義の到達目標(ねらい) 従来、西洋世界の源流に位置づけられてきた古代ギリシア・ローマ世界を扱う。1980年代より、この「源流」という位置づけへの疑義が高まり、違った視点からの考察が進められている近年の研究動向をふまえて、新たなギリシア・ローマ世界像を紹介したい。本年度は特に文化的な諸相に注目して、縁起話を題材にギリシア人やローマ人にとっての神話とアイデンティティの関係、さらにギリシア文化のローマを含む他地域への影響 (Hellenization) や、その影響を受けつつ形成した自らの文化を領域内に広めたローマ帝国の文化諸相 (Romanization) を取り上げることで、西洋文明の基底に存在するものの理解を深め、明治以降、西洋文化の圧倒的な影響にある日本の社会を見直すことをめざしたい。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、第一回目のオリエンテーションで講義全体の問題設定と視点を明確にしたうえで、古代ギリシア・ローマ世界全体の理解をめざして、ローマ帝国の滅亡までを概説を交えながら、近年の研究成果を摂取して、古代ギリシア・ローマ世界が後世、どのように認識されてそのイメージが変容していったのかの受容史を紹介してから、ポリスの実態をスパルタを例に取り分析し、またアレクサンドロス大王の東征後のポリス世界を王国との関係で捉え直し、さらにローマ帝国における属州との関係を考古学的な見地から考察する予定である。後期は特に古代ギリシア・ローマ世界における文化的諸相に注目して、造形美術 (彫像や建造物) を新たな視点から見直すことで、これらのものが当時の社会の何を表象するのかを考え、またギリシア人の仲間意識にとって重要であった各コミュニティ間の血縁関係を、縁起話に見られる神話世界との関わりで分析し、その影響を受けたローマの起源譚へも注目したい。さらにローマ帝国におけるギリシア文化とローマ文化の相関関係を具体的に取り上げて、このことが後世の古代ギリシア・ローマ文明のイメージに決定的であったことを示すことで文化的諸相から歴史世界をいかに見ることができるかを示したいと考えている。

準備学習 講義内容の理解を助けるために、講義中にあげた文献などを事前に講読していただくことが好ましいであろう。

履修上の留意点 ただ情報を得るだけでなく、講義内容を土台に西洋古代世界とは現実的にはいかなる社会であったのかを自分なりにイメージし、自らが所属する現代社会とはいかに違うのかを考えるという積極的な姿勢で講義に参加して貰いたい。

成績評価の方法 前期と後期の最後に試験をして評価するが、出席が前提となるので出席点も考慮する。追試験は行わない。

教科書／テキスト 使用しない。

参考書 なお参考書は講義中に随時、指示する。

履修コード	051301
科目名	西洋史各説IV
担当者名	白川 耕一

講義の到達目標(ねらい) 講義テーマ：第2次世界大戦とドイツ社会—ナチズム・戦争・社会—
20世紀は「戦争の世紀」と呼ばれる。20世紀前半の2つの世界大戦の舞台となったのはヨーロッパであり、その中心にはドイツが位置した。第2次世界大戦が終了して60年以上が経過した現在でも、戦争の帰結はヨーロッパの政治・文化・社会に大きな影響を与え続けており、「ナチズム」や「第2次世界大戦」とのかかわり方は深刻な政治問題になる場合がある。本講義では、新しい研究に基づきつつ、第2次世界大戦期のドイツ社会の経験を明らかにし、その経験が戦後に及ぼした影響も検討したいと考えている。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 はじめに、第2回 ヴァイマル時代の政治と軍部、第3～4回 ナチ時代 (1933～39年)、第5～6回 軍備政策の展開と世論、第7～8回 第2次世界大戦の勃発と世論、第9～11回 追放から絶滅へ—ユダヤ人政策—、第12～15回 絶滅戦争—国防軍と独逸戦—、第16～18回 空襲と民衆 (1940～44年)、第19～21回 外国人労働者、第22～25回 民族共同体の崩壊—1945年—、第26～28回 強制収容所の解放—アメリカ軍とドイツ人—、第29回 戦後社会とナチズムの過去、第30回 まとめ

準備学習 ドイツ現代史に関する概説書を1冊以上閲読した上で、講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法 毎回出席をとる。中間試験 (前期末) と学年末にそれぞれに筆記試験を課し、その内容 (70%) と出席点 (30%) により成績評価を決定する。

教科書／テキスト 教科書は指定しない。

参考書 木村靖二他編『世界歴史大系 ドイツ史3』 (山川出版社 1997年)
ノルベルト・フライ (芝健介訳) 『総統国家』 (岩波書店 1993年)
セルジョ・ルツァット (堤康徳訳) 『反ファシズムの危機』 (岩波書店 2006年)
Die deutsche Kriegsgesellschaft 1939-1945 (Das Deutsche Reich und der Zweite Weltkrieg Bd. 9/ 1 & 2), Munchen 2004, 2005.
Fritzsche, Peter, Life and Death in the Third Reich, Cambridge/ London 2008
Sheehan, James J., Where have all the Soldiers gone? The Transformation of Modern Europe, New York 2008

履修コード	051501
科目名	西洋史特講II
担当者名	伏島 正義

講義の到達目標(ねらい) 中世史に興味がひかれる契機は、ある伝説的物語、事件、事項のもつ魅力に負うところが少なくない。本講ではそうした事柄を選んでみたい。そして、そうした事柄がある特定の歴史的背景を反映したものであるとの認識に立ち、それがいかなる社会的背景に基づくものであるかについて考えてみたい。具体的にはどのような事柄を扱うかについては、受講生と相談のうえ決める。

講義の内容／授業スケジュール 上記に関係する論文、史料などを読む。具体的には受講生と相談し、決める。初歩のドイツ語による興味あるテーマとしたい。受講生がもしドイツ語に習熟していない場合には、ドイツ語の文法的解説を行う。
本講では演習形式により授業を進める。本講では論文等をその数において多く読むことよりも、その1つ1つを丁寧、正確に読むことを心がけることにより、当該論文等の内容を深く理解し、合せて歴史研究の方法を学ぼうとするものである。

履修上の留意点 本講は西洋史一般の知識を広く、そして多く獲得することを単に目的とするものではなく、むしろ歴史の深部を探求し、考求しようとするものである。したがって授業は演習形式で行うため、受動的な態度ではなく、予習、復習をしっかりと行うことを希望します。

成績評価の方法 毎回授業にどれ程熱心に、積極的に参加しているかが基本的な基準となることは言うまでもない。授業で毎回確かめる出席の回数と期末テストで評価する。

教科書／テキスト 教科書は特に定めない。必要な論文、史料等はプリントして配布する。

参考書 参考書は授業の進行に合わせて、その都度指摘する。

履修コード	051701
科目名	西洋史特講IV
担当者名	佐々木 真

講義の到達目標(ねらい) 17世紀フランスの王権や統治のあり方について、政治と芸術との関係を中心に解説し、近世国家についての理解を深める。

講義の内容／授業スケジュール 授業概要
 テーマは「フランス絶対王政期の戦争と芸術」。最近のフランス絶対王政に関する研究では、絶対王政期の王権の統治能力が相対的に弱かったことが指摘されており、それを補完するものとして、儀礼や芸術作品により王権が象徴的に自らの権力を表象し、それにより形成された国王イメージが、統治において有効に作用していたことが主張されている。本講義では、「王の栄光」を表すために最適の事件である戦争や戦闘での勝利が、絵画を筆頭とする芸術作品でどのように表象されたのかを検討する。そして、そこからルイ14世とそのブレーンたちが、王権のどのようなイメージを伝えたかったのかを明らかにする。

- 授業計画
 (前期)
 (1) 問題点の提示
 (2-3) 16～17世紀の王権論
 (4-5) ルイ14世のイメージ戦略(芸術に関する諸制度)
 (6) 17世紀の絵画(形式や内容)
 (7) シャル・ルブラン
 (8) ルブランの作品①(アレクサンドロス大王連作)
 (9-12) ルブランの作品②(ヴェルサイユ宮殿)
 (13-14) その他の絵画作品
 (15) 試験
 (後期)
 (16) ファン・デル・ムーラン
 (17-18) ファン・デル・ムーランの作品①(タピスリー)
 (19-21) ファン・デル・ムーランの作品②(戦争画)
 (22-23) 版画について
 (24-26) 版画における戦争の表象①(絵画の複製としての版画)
 (27-28) 版画における戦争の表象②(アルマナ)
 (29) まとめ
 (30) 試験

準備学習 履修者はあらかじめ紹介された参考文献をなるべく多く読み、より広い知識や見識を身につけて授業にのぞむこと。

成績評価の方法 前期と後期の終了時にそれぞれ行う試験により評価する。

教科書／テキスト 教科書は特に指定しない。

参考書 参考文献に関しては、授業中に随時紹介する。

履修コード	051811
科目名	西洋史特講VI
担当者名	佐藤 育子

講義の到達目標(ねらい) 古代地中海世界を舞台に、東西文明の架け橋として活躍したフェニキア人の活動に焦点を当てて講義を進めていきます。
 フェニキアやその植民都市カルタゴについては、オリエントの大国や地中海の最終的覇者となったローマの立場から見れば弱者や敗者の歴史であり、これまで十分に評価されて来たとは言いがたい部分がありました。本講義ではこの点に着目し、彼らが古代地中海世界において果たした役割を再検討し、多様な古代地中海世界を理解し補完することを目標とします。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、フェニキア本土の歴史を、青銅器時代からヘレニズム時代までの古代オリエント史の流れの中に位置づけて学びます。
 後期は、フェニキア人が建国したカルタゴの歴史を、「誕生」からポエニ戦争で「滅亡」するまでを中心に、ギリシア・ローマ世界との関わりの中で学びます。
 前期・後期とも授業の最初に詳細なスケジュールを配布しますが、以下の内容を予定しています。

- 第1回 オリエンテーション
 第2回～第5回 青銅器時代のシリア・パレスティナ
 第6回～第11回 鉄器時代のフェニキア諸都市と海外発展
 第12回～第15回 ペルシア時代以降のフェニキア
 第16回～第20回 カルタゴの誕生と紀元前一千年紀前半の地中海世界
 第21回～第25回 地中海の覇者カルタゴ
 第26回～第30回 ポエニ戦争とカルタゴの「滅亡」

なお、毎回、パワーポイントによるプレゼンテーションを行い、必要があればDVDなどの視覚映像も使用します。

準備学習 特に入念な予習は必要としませんが、授業を聞いてさらに関心を持ったことなど、積極的に各自で調べてみることを勧めます。

履修上の留意点 疑問に思ったことや授業に対する要望などは、リアクション・ペーパーなどを活用して積極的に申し出てください。
 講義形式ですが、対話のある授業内容を目指したいと思います。
 なお、出席率が規定に満たない場合は、学期末のリポートの提出を認めませんので、注意して下さい。

成績評価の方法 学期末のリポート*1 50%
 出席率*2 50%

- *1 リポートの内容については、授業内で告知します。
 *2 毎回の授業の最後に出欠確認を兼ねたリアクション・ペーパーを提出してもらいます。記述内容も平常点として加味します。

教科書／テキスト 特にテキストは使用しませんが、毎回レジュメとしてプリントを配布します。
 必要に応じて、授業時に携帯し、活用して欲しいと思います。

参考書 授業の中で、随時、紹介していきます。本学の図書館に置いてある場合は、必ず、各自で一度は本の内容を確認しておいて下さい。

履修コード	051831
科目名	西洋史特講VIII
担当者名	河野 淳

講義の到達目標(ねらい) 現代社会を構成する様々な要素、例えば資本主義、民主主義、ナショナリズムといったものの直接、間接の起源を西洋中世に求めるということが、広く行われています。いわば西洋中世は、常にアクチュアルな関心の対象なわけですが、しかし、西洋中世というものが、きわめて複雑で現代人に理解し難い側面を持っているということも確かです。そこでこの講義では、西洋中世の全体像を、「社会のあり方」と「社会のあり方についての考え方」という軸を中心に、簡潔な形で示すことを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール 内容：初期中世から後期中世にかけてのヨーロッパ社会のあり方を、重要なトピックをおさながら概観してゆきます。そして同時に、その社会が、教会や王権を含めて全体的にどのように理解されていたのか、見てゆきます。叙任権闘争期を境に独特な形で展開されることになった国家論については、近代の国家論への影響ということを含めて念頭に置きつつ、特に詳しく論じてゆきます。
授業スケジュール：(1～10) 初期中世の社会と思想 (11～20) 盛期中世の社会と思想 (21～30) 後期中世から近世前半期にかけての社会と思想

履修上の留意点 西洋中世という遠い地域の遠い昔のことを、そもそもどれだけ理解しうるのか？そしてなんのために理解するのか？という疑問に対して、自分なりの解答を見つけるつもりで、授業に臨んでください。

成績評価の方法 授業期間中に課す課題と、出席状況をもとに評価します。

教科書／テキスト 特になし。必要に応じて資料を配布します。

履修コード	045101
科目名	西洋史文献史料講読I
担当者名	伏島 正義

講義の到達目標(ねらい) 西洋史の一次史料を読むことを目標とする。つまり西洋史を学ぼうとする場合、それが人文・社会科学の1部門であるとの立場に立つ限り、その根拠として、史料は必要不可欠であり、必須の前提条件であることは言うまでもない。しかも史料を読むことにより、それを包む社会がいかなるものであったのかについて、さまざまな角度からの検討を可能とさせる。なぜならば、史料は自身からはなんら自動的に語り出すものではなく、我々の史料への問いかけ次第で、多くの事柄について汲めども尽きないヒントを与えてくれるはずだからである。

講義の内容／授業スケジュール 具体的にいかなる史料を扱うかについては受講生と相談のうえ、決める。但し本講では西欧諸国を対象とし、概して前近年をその範囲とする。また史料は翻訳に拠ることなく原典それ自体を読むこととしたい。なぜならば、翻訳は翻訳者の一定の見解を濾過したものである限り、それに依存することは我々自身の自由で、独創的な解釈を阻害する危険があるからである。
昨年度は9世紀初頭バリのサン＝ジェルマン＝デ＝プレ修道院の院長イルミノンによる所領明細帳の一部を読んだ。これは西洋中世における領主-農民関係を議論する場合の根拠とされる第一次史料である。授業のスケジュールとしては、前期に初歩のラテン語を学び、後期に史料を読んだ。本年度もこのようなスケジュールをとりたい。

履修上の留意点 歴史を原典史料に降り立って、じっくりと研究しようとする志を持つ、地道な姿勢が期待される

成績評価の方法 演習形式で授業を進めるため、毎回授業に出席し、いかに積極的にして熱心に参加しているかが基本的な基準である。学期末にテストを実施し、決める。

教科書／テキスト 必要なテキスト、史料はプリントして配布する。
ラテン語の辞書は必ず用意して下さい。
Smith, William / Lockwood, John, Chambers Murray Latin - English Dictionary (PAP) REI SUB Edition - GB -

参考書 授業に合わせて、その都度指摘する。

履修コード	045291
科目名	西洋史文献史料講読XI
担当者名	土方 史織

講義の到達目標(ねらい) 18～19世紀のブリテンを論じた英文テキストを読み、当時の社会状況や世界観を理解することを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 輪読形式で読み進めます。またこちらから解説を適宜加えていきます。前期は基礎編として簡単な概説書を読み、時代状況をイメージできるようにします。後期は応用編として19世紀ブリテンに関する研究論文を読み、史料分析の手法を学びます。

準備学習 予備知識としてブリテン史及び近代ヨーロッパの時代状況を理解しておくことが必要です。

履修上の留意点 毎回出来るだけ多くの受講生に発表してもらうため、予習は必ずしてきて下さい。遅刻、私語は厳禁。守れない人は履修しないで下さい。

成績評価の方法 基本的には授業中の発表、課題(前期・夏期・後期)の内容で決めます。受講生が多い場合は試験や追加課題を行うことも考えています。また発表者でなくとも授業への積極的な参加が認められれば、評価の対象になります。

教科書／テキスト 開講時に発表します。

参考書 川北稔、木畑洋一編『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』(有斐閣アルマ—世界に出会う各国=地域史)有斐閣 2000年。
村岡健次、川北稔編著『改訂版 イギリス近代史：宗教改革から現代まで』ミネルヴァ書房2003年。
井野瀬久美恵著『大英帝国という経験』(興亡の世界史 第16巻)講談社 2007年。
井野瀬久美恵編『イギリス文化史』昭和堂 2010年。

その他 ・授業初回に詳細なガイダンスをおこなうので履修予定者は必ず出席して下さい。出席しないと履修できません。
・報告担当者の無断欠席が多くみられます。履修放棄とみなしますのでご注意ください。

履修コード	045211
科目名	西洋史文献史料講読III
担当者名	佐々木 真

講義の到達目標(ねらい)	フランス語で文献を購読してみたい人のための授業。フランス語で書かれた文献を辞書を使用して正確に読むことができるようになる訓練をし、卒論執筆時などにフランス語文献を使用することができることを目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	フランスの絶対王政期から革命期にかけての文献をフランス語で講読する。同時に、テキストの背景となる歴史状況についての解説も行う。授業は履修者の輪読による演習形式で進める。進行方法については、受講者の数やレベルを考慮して授業を行うなかで決定する。 (1)ガイダンス、(2-30)文献の購読
準備学習	毎回テキストの内容を必ず予習しておくこと。
履修上の留意点	外国語を講読する授業なので、フランス語の基礎的な知識は必要となる。また、フランス史についてのある程度の知識が必要となるので、授業中に紹介する参考文献や概説書を必要に応じて読むこと。テキストを正確に読むためには、内容を常に理解することが肝要であり、それには前後関係の理解が重要となる。そのため、欠席は原則として認めない。
成績評価の方法	成績は授業への出席と、授業に対する各受講生の取り組みを中心に評価し、必要が認められた場合には学年末に試験を実施する。
教科書／テキスト	テキストは授業開始時にコピーを配布する。
参考書	参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。

履修コード	045231
科目名	西洋史文献史料講読V
担当者名	佐藤 育子

講義の到達目標(ねらい)	本講義の到達目標は、西洋史研究に必須である専門的な文献を読みこなせる力を養うことにあります。卒業論文作成の際の手助けとなることを念頭に置き、特に英語の文献を用いながら、外国語の二次文献に慣れ親しむことを最大の目標とします。単に英語を日本語に訳すだけに止まらず、内容を把握して、論旨の全体像を理解する力を養います。
講義の内容／授業スケジュール	古代オリエント史、あるいはギリシア・ローマ史に関するテーマについて書かれた英文テキストを予定しています。テキストについては、授業の最初に受講生と相談の上決定しますが、必要部分は印刷して配布します。年間の計画はおおよそ以下の通りです。 第1回 オリエンテーション 第2回 テキストの選択と説明 第3回～第14回 輪読形式による史料講読 第15回 前期のまとめ 第16回 後期のイントロダクション 第17回～第29回 輪読形式による史料講読 第30回 後期のまとめ
準備学習	基本的に、受講生によるテキストの輪読形式で授業は進みます。ですので、次回の担当者は、当該箇所に対する入念な予習が必要とされます。ただ、本文中の英文を和訳するだけではなく、注を含めた内容についても説明を求めますので、積極的な予習を心がけてください。
履修上の留意点	必ず、事前に配られたプリントを予習して授業に臨んで下さい。他の人の発表に対して、コメントを求めることもあります。なお、教育実習や就職活動などで、予め授業を欠席することが分かっている場合は、原則として事前に届け出て下さい。
成績評価の方法	授業への出席率 30% 授業中での貢献度(発表・その他) 20% 前期末と後期末に提出するレポート 50% 以上を総合的に見て判断します。
教科書／テキスト	教科書は指定しません。必要に応じてプリントを配布しますので、各自で保管し、授業時には必ず携帯して下さい。
参考書	授業の中で、随時、紹介していきます。本学の図書館に置いてある場合は、必ず、各自で一度は本の内容を確認しておいて下さい。

履修コード	045251
科目名	西洋史文献史料講読VII
担当者名	井上 文則

講義の到達目標(ねらい)	西洋古代史に関する英語文献を購読し、英文の読解能力向上を目指す。
講義の内容／授業スケジュール	所定の英語文献を前後期合計30回講読する。
準備学習	出席者には毎回解答を求めするので、受講に際しては予習は不可欠である。
履修上の留意点	英和辞典の携帯が必須である。
成績評価の方法	期末試験(40点)と出席点(60点)の総合評価
教科書／テキスト	講義中に指示、配布する。
参考書	講義中に随時指示する。

履修コード	045271
科目名	西洋史文献史料講読IX
担当者名	菊池 紘一

講義の到達目標(ねらい) 今日、世界的にも国内的にも大きな社会変化が起こっているように見える。人間社会の変成を追究する方法としての歴史学の役割を再確認する意味で、E. H. カー『歴史とは何か』は依然として、バランスのとれた「歴史への心構え」を説く必読文献である。にもかかわらず、その日本語版は訳文の難解さも手伝って十分に読み込まれ理解されているとは言い難い。この状況は克服されなければならない。

講義の内容／授業スケジュール 原著および参考文献から下記のごとく抜粋し、新たな改訳文を添付してテキストを構成する。テキストを講読した上で、受講生から質問・コメント等を出席カードに記入提出してもらい、次回授業において回答する。
E. H. Carr, What is History? (2nd ed., by R. W. Davis, Penguin Books, 1987)
1 The Historian and His Facts
2 Society and the Individual
3 Causation in History
David Cannadine (ed.) What is History Now? (Palgrave, 2002)
1 Prologue: What is History? —Now (by Richard Evans)

履修上の留意点 テキストを予習した上で授業に参加し、復習も怠らないこと
成績評価の方法 出席状況を含め、授業への取り組み、応答ぶりを見た上で評価します。
教科書／テキスト テキストをプリントして配布しますが、清水幾太郎訳『歴史とは何か』（岩波新書）は各自任意で入手してください。
参考書 授業の中で内容・話題に応じて紹介します。

履修コード	046911 046912
科目名	西洋文化史
担当者名	田中 佳

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、ヨーロッパの歴史の中で文化にかかわるテーマを取り上げ、近年の文化史、社会史の成果に依りながら考察を加える。今年度、集中して扱うのは、美術館を中心とする美術と社会の問題である。ヨーロッパ史への多角的な理解を深めるばかりでなく、今日の社会・文化現象についての歴史的関心を養い、既存の概念やシステムを批判的に再検討するきっかけを提供することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (1)イントロダクション (2~3) 文化史の課題と方法 (4) アンシャン・レジームの美術と社会 (5) コレクションの形成・発展 (6) 市場の確立と流通—競売会の発展 (7) 展覧会の誕生 (8) 展覧会見学 (9) 「美術書」の誕生と複製の制作 (10) 「美術史」の形成 (11) 「公衆」の台頭と批評の増大 (12~14) 習俗の涵養と美術 (15) 中間試験
(後期) (16~18) 美術館の起源 (19~20) パリ・ルーヴル美術館 (21) 美術館見学 (22~26) ヨーロッパの美術館の創設 (27) アメリカの美術館の創設 (28~29) 日本への美術館の「輸入」 (30) 総括

履修上の留意点 講義内容をふまえたうえで、自ら問題意識を持ち、考察を深めてほしい。
成績評価の方法 平常点(小テスト、提出物等を含む): 20%
中間試験: 40%
期末試験: 40%
により評価する。
教科書／テキスト テキストはとくに指定しない。
参考書 授業内で随時紹介する。

履修コード	044201 044202
科目名	世界史概説
担当者名	井村 行子

講義の到達目標(ねらい) 西洋史を中心に古代から現代までの世界史の概要を把握する

講義の内容／授業スケジュール 第1回 世界史とは何か
第2回 古代オリエント
第3~5回 古代
第6~9回 中世
第10~14回 近世
第15回 前期試験
第16~21回 長い19世紀
第22回 ラテンアメリカ
第23~30回 短い20世紀

成績評価の方法 前期・後期の筆記試験の成績と授業内に行う小レポートを合わせて評価する
教科書／テキスト 『世界史B 改訂版 100テーマで見る世界の歴史』（清水書院）

関連リンク <http://www.d1.dion.ne.jp/~yimura>

履修コード	056501 056502
科目名	世界史概説
担当者名	小林 惣八

講義の到達目標(ねらい)	当該科目は、教職科目と必修科目の二面性を持っている関係上専門的知識を要求しながらも基礎基本的な歴史の見方や考え方にも主眼を置く科目である。 「中国王朝史の終焉」に目標を設定し、1912年清朝宣統帝溥儀が退位するまでを中国側とヨーロッパ側両面から解き明かすことを狙いとする。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：本講義の概要、第2回～3回：中国史概観、第4回～12回：中国王朝史の歩み、第13回～14回：ヨーロッパ古代史概観、第15回～16回：ヨーロッパ中世史概観、第17回～22回ヨーロッパ近代史概観、第23回～ヨーロッパ諸国のアジアへの進出。
準備学習	講義終了後毎回レポート課題を課す。これは、課題処理によって歴史の歩みの前後関係をより的確に把握するためのものです。
履修上の留意点	「継続は力なり」根気強く取り組む姿勢を求める。
成績評価の方法	前期・後期のレポート提出と試験・出欠状況の総合評価とする。
教科書／テキスト	特別定めないが、世界史の概説書や図表を座右に置いて聞くことを勧める。
その他	出席を重視する。

履修コード	016401 016402
科目名	中国文学 中国歴史文学
担当者名	田熊 信之

講義の到達目標(ねらい)	数千年にわたる中国の歴史の中で、政治や文化の中心的な担い手となった漢民族は、時には他の民族とも混淆を累ねながら、特異な漢字文化を生み育てて来ました。本講座では、こうした漢字文化の粋である各種の文学作品(新出遺文も含め)を選読し、中国の人々が築き上げた多様な文字表現の世界を省察しつつ、中国文学に対しての読解力と鑑賞力を養っていききたいと思えます。
講義の内容／授業スケジュール	中国文学の世界には、例えば、歌謡や巫歌に由来する韻文の流れや、卜辞、告誓、記事などに始まる散文の流れがあり、このもとには、社会生活を営む人間それぞれの哀歓こもごもの姿が写し出されています。ここでは、各々の時代の思想、信仰等に彩られる、さまざまな形の文学のうち、歴史に関わる作品を適宜読み進めていきます。 〔前期〕第1回：中国の風土と歴史、第2～3回：漢字の創造とその展開、第4～5回：文学の出現とその変遷、第6～8回：表現の歴史とその推移、第9～10回：『史記』巻九十七「陸賈列傳」(陸賈と劉邦)、第11～12回：『新語』抄文講読 同巻上「道基第一」、同巻下「述事第二」、第13回：同巻上「輔政第三」、第14～15回：同巻下「資質第七」、「本行第十」 〔後期〕第16回：古都洛陽(雒邑から洛陽へ)、第17～18回：仏教東伝と白馬寺(『牟子』「理惑論」、『高僧傳』「譯經上」、『魏書』「釋老志」)、第19回：『洛陽伽藍記』と楊銜之、第20～22回：『洛陽伽藍記』講読(序)、第23～25回：同巻第一「城内」永寧寺条、第26～28回：同巻第一「城内」建中寺、長秋寺条、瑤光寺条等、第29回：同巻第三「城南」景明寺条等、第30回：同巻第四「城北」宋雲惠生使西域条
準備学習	中国の地理、風土、歴史等については、各自概説書や関連著作などを参看して、基礎知識を得て下さい。
履修上の留意点	各種の辞書の用い方に慣れておくことともに、幅広い視野をもつことを心がけて下さい。
成績評価の方法	評価は、受講の状況を重視しながら、課題等への対応のさま、レポート或いは試験等の結果を勘案し、総合的に行ないます。
教科書／テキスト	プリントを配布して、これをテキストとして使用します。
参考書	参考書、資料等については、授業時に説明し、紹介します。
その他	授業は、講義及び演習の両方式を混ぜて行ないます。
関連リンク	https://www.komazawa-u.ac.jp

履修コード	053201
科目名	哲学史
担当者名	山口 祐弘

講義の到達目標(ねらい)	ヨーロッパにおける近代哲学の展開を通して哲学とは何かを学び、思索する態度を養う。
講義の内容／授業スケジュール	〈前期〉近代哲学の潮流 I 近代哲学の出発点と問題：デカルト 1 確実な学問の追求 2 方法的懐疑と帰結 3 心身問題 II 大陸合理論：二元論の調停 1 心身平行論-スピノザ 2 単子論-ライブニッツ 3 偶因論-マルブランシュ III イギリス経験論 1 人間知性の吟味-ロック 2 存在と知覚-パークリー 3 懐疑主義-ヒューム IV 啓蒙思想 1 感覚論-コンディヤック 2 唯物論-ラマルク、ドルバック 3 決定論-ディドロ 4 功利主義-エルベシウス 5 反主知主義-ルソー V 総括：近代知の抬頭と挫折—啓蒙の弁証法 〈後期〉近代哲学の湖：カント I カントの見た学問的状况 1 独断論 2 懐疑論 3 批判哲学の課題 II 形而上学への関心 1 諸学問の基礎 2 先天的総合判断 3 形而上学の危機と可能性 III 認識論の革命 1 コペルニクス革命と実験的方法 2 科学的認識の構造 3 観念論と実在論 IV 実践的形而上学 1 行為と自由 2 道徳と形而上学 3 実践と理論 V 総括：近代的人間の全体像
成績評価の方法	学期毎に小論文を課す。
教科書／テキスト	久保・河谷編「原典による哲学の歴史」公論社 山口祐弘「カントにおける人間観の探究」勁草書房

履修コード	043911
科目名	東洋史概説
担当者名	石井 仁

講義の到達目標(ねらい) 歴史教科としての「東洋史」は、近代日本におけるアジア・オリエント研究＝東洋学を母胎としており、この学問・研究の成立と発展は、明治以来の日本の対アジア政策と密接にリンクしています。講義では、東洋史の生い立ちをたどりつつ、アジアの歴史を中国古代・中世史を柱に考察します。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (01～03) 東洋史とは何か
(04～06) 中国文明の始まり
(07～09) 秦漢帝国の成立
(10～12) 漢の武帝とその時代
(13～15) 補論
(後期) (16～18) 三国志の世界
(19～21) 東晋南朝の貴族制
(22～24) 五胡十六国から北魏へ
(25～27) 隋唐帝国の成立
(28～30) 補論

履修上の留意点 講義を通して、歴史を学ぶことの意味を考えて欲しい。
成績評価の方法 前期レポート(40%)と学期末試験(60%)の成績を基準にしますが、出席状況を加味することもあります。
教科書／テキスト 使用しません。配付プリントをもとに講義を進めます。
参考書 熊本崇編著『中国史概説』(白帝社)。このほか、講義で随時紹介します。
その他 適宜、映像資料も使います。

履修コード	054211
科目名	東洋史学演習I
担当者名	石井 仁

講義の到達目標(ねらい) 中国古代理・中世史研究の基礎知識を修得し、卒業研究の出発点とすることをめざします。前期の前半では、三国時代研究を例に、正史をはじめとする文献史料の使い方、あるいは関連する研究論文・著書などの調査・収集方法などについて、解説します。これをもとに、前期の後半と後期では、受講生が各自の興味関心に沿いつつ、主として研究論文を素材に、調査・研究内容を輪番で報告します。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (01) ガイダンス
(02～10) 中国史研究の基礎知識
(11～15) 研究発表・討論
(後期) (16～28) 研究発表・討論
(29～30) 補論

履修上の留意点 予習・復習に十分な時間をとって講義に臨んでください。
成績評価の方法 出席状況(研究発表も含む)をもとに評価します。
教科書／テキスト 渡邊義浩著・三国志学会監修『三国志研究入門』(日外アソシエーツ、2007年)。このほか、研究発表で取りあげる論著、および補足資料をプリントして配付します。
参考書 随時紹介します。

履修コード	054101
科目名	東洋史学演習I
担当者名	中村 淳

講義の到達目標(ねらい) 清の趙翼が著した『二十二史劄記』の宋・遼・金・元の部分を中心に講読する。ねらいは、漢文読解能力の養成と、受講者各自がより具体的な問題意識を持つきっかけを見いだしてもらうことにある。

講義の内容／授業スケジュール 具体的にどの箇所を読むかについては、受講者の希望する研究テーマを勘案して、授業開始時に指示したい。少なくとも1ヶ月以上前に担当を決める。担当者は、担当日までの間に、担当部分の書き下し・日本語訳、関連データの収集・分析をする。当日は、作業結果を整理したレジュメに基づいて報告してもらう。また夏期休業期間中には、研究テーマに関するレポートを作成してもらう。後期には、レポートに基づく発表をしてもらう機会を設ける。

履修上の留意点 出席重視。初回から必ず出席すること。また自分以外のゼミ生が担当する箇所の漢文も、本文については書き下しをして、文意について考えてくることを求めます。
成績評価の方法 出席点と平常点にレポートの評価を加味し、総合的に評価する。
教科書／テキスト 必要な史料はプリントで配布。

履修コード	055611
科目名	東洋史学演習II
担当者名	石井 仁

講義の到達目標(ねらい) 東洋史に関する卒業論文の作成を指導します。研究テーマの設定から、参考文献や基本史料の調査・収集・読解、具体的な論文執筆の方法・手順に至るまで、全般的にバックアップします。前期では、各自の問題関心にかかわる基本的な研究、ないしは注目する研究について調査し、輪番で報告します。そのうえで、これまでの研究の問題点や精査を要する事項などをチェックしつつ、研究テーマをしばらくこみ、論文作成の手順を確認します。後期では、できるだけ早い時期に、各自の研究テーマを輪番で中間報告し、作業手順を再確認します。進捗度によっては、作業手順(あるいはテーマ自体)の補足・修正などについてもアドバイスします。ただし、受講者が極端に少ない場合には、前期・後期とも個別指導をおこないます。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (01) ガイダンス
(02～15) 研究発表・討論
(後期) (16～27) 研究発表・討論
(28～30) 個別指導

履修上の留意点 講義時間外も、可能なかぎり、相談に応じて個別指導します。「自分の研究なのだ」という自覚をもち、一生に一度の卒業論文の執筆に情熱を傾けましょう。
成績評価の方法 出席状況(研究発表も含む)をもとに評価します。

履修コード	055601
科目名	東洋史学演習II
担当者名	杉山 清彦

講義の到達目標(ねらい) 卒業論文、とくにアジア諸地域の近世～近現代史を扱う卒業論文の作成を指導する。大学での4年間の学業の集大成である卒業論文とは、自分の問題意識と興味関心に基づいてテーマを設定し(問題設定)、それを解くための史資料を収集・検討し(史料読解・批判)、自分の検討結果・見解を論理的に他者に提示する(構想報告・論文執筆)という一連の過程である。受講生各人がこの過程を体験し、かつ朋輩の報告・討論に参加することによって、問題発見・解決の力とプレゼンテーションの力を養うことを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 卒業論文へ向けての構想発表とそれに対する討論・指導を主として進め、受講生は輪番で研究報告する。並行して東アジアの近世～近代史に関する秀れた研究論文を講読し、その過程において、史資料の調査・収集・読解の方法や論文の構想・執筆法を実地に指導する。具体的スケジュールについては、開講後受講者の人数・テーマを勘案して相談する。
第1回：ガイダンス 第2～15回：研究法指導・文献講読・研究発表 第16～29回：研究法指導・研究発表 第30回：予備日

履修上の留意点 演習であるので、毎回の出席はもちろん、発表・討論への積極的参加姿勢が求められる。
成績評価の方法 出席状況を含む平常点による。

履修コード	055501
科目名	東洋史学演習II
担当者名	中村 淳

講義の到達目標(ねらい) 主として中央ユーラシア史を対象とする卒業論文の作成に対する指導を行なう。受講生がより精度の高い卒業論文を作成することがねらいになる。

講義の内容／授業スケジュール 卒業論文の相談会・中間発表を随時行なう。前期に卒論のテーマとその研究史に関する発表を1回、夏休み前に中間発表として1回、後期に構想発表を1回行ない、10月から11月にかけて内容報告を数回行なう予定にしている。具体的なスケジュールについては、最初の講義の際に受講生と相談しながら決める。

履修上の留意点 出席重視。
成績評価の方法 出席点と平常点を総合して評価する。
教科書／テキスト 必要な史料はプリントで配布。

履修コード	048611
科目名	東洋史各説II [古代史]
担当者名	山口 洋

講義の到達目標(ねらい) 中国王朝と周辺諸国との関係について、如何なる問題点が存在し、どの様に研究が進められているのかを知ると共に、自ら問題に取り組めるようになること。

講義の内容／授業スケジュール 前漢王朝以来、中国王朝にとって北アジアの遊牧民族勢力との関係は非常に重要であった。遊牧勢力は時には中国世界の奥深く進入し、やがて王朝をうち立てることもあった。北魏や北朝諸王朝、隋、唐などもその王族は鮮卑系である。また、西域諸国と中国王朝との交流は、それ自体が中国王朝に様々な影響を与えたが、その過程では北アジア遊牧勢力との力関係が影響していた。本講義では、北アジア史や中央アジア史の視点から中国史を再検討する。また、後期は隋王朝を中心に東アジア史の視点から、高句麗・日本との関係も視野に入れたい。対象時代は、中国王朝で言えば秦から唐まで。以下の予定を進める。
第1回：ガイダンス
第2回～第3回：アジアの地理と風土
第4回～第5回：冊封
第6回～第8回：西域と漢王朝
第9回～第11回：匈奴
第12回～第14回：鮮卑、柔然
第15回：前期まとめ
第16回～第18回：隋の統一(南北朝から隋成立まで)
第19回～第22回：突厥
第23回～第24回：高句麗
第25回：隋王朝と西域
第26回：吐谷渾
第27回：高昌国
第28回～第29回：日隋関係
第30回：試験

準備学習 参考書に掲げた文献を中心に予習復習しましょう。
履修上の留意点 出席不良者には単位修得を認めない。課題は必ず提出すること。
成績評価の方法 筆記試験50%(後期最後)
レポート30%(前期夏休みのレポート)
出席20%(全体の3分の1以上を休んだ場合は、その時点で「不可」とします)
(筆記試験は必須)

教科書／テキスト プリント配布
参考書 池田温[ほか]著『中国史』(山川出版社)1996.7(世界歴史大系)
森安孝夫著『シルクロードと唐帝国』(講談社)2007.2(興亡の世界史:05)
護雅夫著『古代遊牧帝国』(中央公論社)1976.7(中公新書:437)
護雅夫著『古代トルコ民族史研究』1-3別冊(山川出版社)1967.3-1997
護雅夫著『李陵』(中央公論社)1974(中公叢書)
内田吟風著『北アジア史研究』鮮卑柔然突厥篇、匈奴篇(同朋舎)1975

履修コード	048711
科目名	東洋史各説III [中世史]
担当者名	石田 肇

講義の到達目標(ねらい)	〈唐宋変革期の諸問題〉と題して講義します。唐から宋にかけては唐宋変革期といわれ、中国史上の大きな転換期として、ひいては東アジア史上の転換期として認識されており、時代区分の問題とも絡んで重要な時期ですので、様々な議論がなされています。そこでこの変革に絡めて講義します。
講義の内容／授業スケジュール	前期では時代区分論について紹介し、ついで唐宋変革期を概説し、後期では前期をふまえてあるテーマについてお話しする予定です。現段階ではテーマは決まっていますが、思想史・士大夫論・史学史・科学論・金石学・書道史といった私の関心のある分野から選んで講義することになると思われます。前期の様子を見て受講者の関心になるべく対応するつもりです。
履修上の留意点	講義ではなるべく史料を示して解説してゆきますので、配布史料は必ず持参すること。
成績評価の方法	出席ならびに課題提出によります。
参考書	適宜、講義中に示します。
その他	講義を中心としますが、なるべく受講生に発言を求めます。

履修コード	048811
科目名	東洋史各説IV [近世史]
担当者名	宮崎 洋一

講義の到達目標(ねらい)	今日の中国経済は急激に発展して、世界第一の経済大国への道を突き進んでいる。その要因を歴史的に探ることが本講義の最大の目的である。このため今日につながる発展の最初の変動期を迎えた明王朝の後半から清王朝の前半期にかけて(16～18世紀)の中国の社会・経済の動向を把握し、中国が如何なる特質をもつ国であるかを理解する一助とする。
講義の内容／授業スケジュール	第1～3回：序論。今日の中国についての様々な情報を提供し、中国の社会・経済における問題点を浮かび上げさせる。 第4～7回：中央と地方。明・清時代の行政体制を確認し、中央政府と個々の人々の生活の場である各地方との関係を考える。 第8～11回：明末清初。16～18世紀の社会・経済の変動を確認し、今日につながる社会的・経済的特質を考える。 第12～15回：生産と技術。生産活動の基盤となる技術に着目し、明末清初期の変動を再確認する。 第16～19回：清朝前期の諸産業。明・清時代の生産・流通・消費について、具体的な事例を示しつつ、その特質を探る。 第20～23回：中国とアジア・ヨーロッパ。「近代」時期以前における中国とその周辺地域との関係を確認する。 第24～27回：いわゆる中国の「近代化」。19世紀における西欧との接触により、中国は近代化するといわれるが、この時期の中国の社会・経済を分析することにより、中国の「近代化」とはなにかということについて再考する。 第28～30回：結論。いくつかの中国近代化のモデルを紹介しつつ、中国とはいかなる社会であるかを確認する。
準備学習	明王朝・清王朝についての基本的知識を、高校世界史のレベルでかまわないので、教科書・参考書等を利用して再確認しておくこと。『中国の歴史』(講談社刊)などの概説書を読んでおくとなおよろしい。但し、ある程度の中国史概説は授業の中でも行います。
履修上の留意点	歴史研究の出発点は今日への関心にあります。日頃から新聞の経済面・国際面に目を通したり、テレビや雑誌等の中国・アジア関係の報道には注目しておいてください。
成績評価の方法	学期末試験(6割)と夏期休業後に提出してもらったレポート(4割)をもとに、総合的に評価します。
教科書／テキスト	教科書は使用しません。但し、毎時間参考資料をプリントの形で配布します。
参考書	講義中に適宜指示します。但し、下記の書は英文で読む時間がかかるかと思うのであらかじめ提示しておきます。 (1) S. Naquin&E. S. Rawski "Chinese Society in the Eighteenth Century" Yale U.P. 1987 (2) M. Elvin "Another History" Hawaii U.P. 1996
その他	特になし

履修コード	048911
科目名	東洋史各説V〔近・現代史〕
担当者名	池尻 陽子

講義の到達目標(ねらい) 17世紀以降、東アジアの覇者となった「中国最後の王朝」清朝は、その建国当初から複数の文化圏・民族集団を内包しつつ勢力圏を拡大し、後に藩部と呼ばれるようになるモンゴル・チベット・新疆に対しては、華夷秩序とは別の世界観をもって臨んでいたことが知られている。中でも、モンゴル・チベットと対峙する際には、チベット仏教に基づく王権思想を根拠に「大施主文殊菩薩皇帝」として臨んでいた。本講義では、チベット仏教を基軸に展開された前近代の内陸アジア世界の歴史を解説し、それに由来する現代の様々な事象をより深く理解するための知識・教養を高めることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、チベット仏教が北アジアへと伝播する経緯を解説する。後期は、17～18世紀の清朝のチベット仏教政策に着目し、清朝とチベット・モンゴル・ジュンガルなど「チベット仏教世界」を構成する諸勢力との関係を解説する。

第1回：イントロダクション、第2～7回：チベットにおける仏教受容と宗派の成立、第8～10回：ゲルク派の誕生からガンデンポタン政権成立まで、第11～13回：チベット仏教のモンゴリアへの伝播、第14回：アルタンハーンとダライラマ、第15回：前期のまとめ、第16回：「大清」の成立、第17～18回：太宗ホンタイジとチベット仏教、第19～20回：清朝によるダライラマ五世招請、第21～22回：ガルダン戦争、第23～25回：「ダライラマ位」をめぐる問題と駐蔵大臣、第26～27回：清朝とチベット仏教世界を仲介する高僧たち、第28～29回：転生高僧と「金瓶掇瑣」問題、第30回：後期のまとめ

準備学習 授業内容をより良く理解するために、授業で解説する歴史上の重要人物・事件や時代背景について、配布するレジュメや参考書などで予習・復習をしてほしい。

履修上の留意点 より良い授業にするため、授業に関する質問・感想を出席カード（毎回授業開始時に配布）に記入して提出してほしい。

成績評価の方法 出席（70パーセント）と年2回のレポート（30パーセント）による総合評価。

教科書／テキスト 使用しない。適宜レジュメと資料を配布する。

参考書 岡田英弘編『清朝とは何か』藤原書店、2009年、3,800円
石濱裕美子編著『チベットを知るための50章』明石書店、2004年、2,100円

その他 なし

履修コード	049011
科目名	東洋史各説VI〔アジア諸民族史〕
担当者名	奈良 修一

講義の到達目標(ねらい) 東南アジアという地域は、古来よりインド、中国の両文明に挟まれ交易により潤ってきている。それゆえ、農業中心の社会というより、交易中心の社会を形成しており、文化、価値観が農業中心の社会と大いに異なる。交易が中心の世界だけに、日本との歴史的関係は長いのだが、それにも関わらず、この地域に対する理解が深いとは言えないのが現状である。故に、この地域の歴史、文化を再確認したい。そのためには、単に歴史的な知識だけを入れるのではなく、歴史の流れと見方を学んでいきたい。さらに、大学の授業として、単に記憶するのではなく、論理的に思考することを求めていくつもりである。

普通、東南アジア史というと、各国史の総合のような形で説かれることが多いが、近代的な国家概念では、前近代の国を理解することができない。それゆえ、世紀割りに歴史を見ていき、各王朝の変遷を追いながら、歴史の流れを把握していく方法をとる。また、歴史を研究する時に盲点になりやすい、文化、宗教、技術の点にも触れていく予定である。さらに、歴史という総合学を学ぶために、文明学、社会学の手法をも適宜使用する予定である。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (1) 東南アジアの定義、(2) 時代区分について、特に「近世」の説明 (3～13) 近世を中心とした世紀ごとの歴史

(後期) (14～22) 「近代」の特徴と19世紀の歴史、(22～25) 20世紀の歴史、(26) まとめ

履修上の留意点 東南アジア史は各地の自発的な発展の歴史であると同時に東西交流の場として世界的な動きの影響を色濃く受けている。それだけに、基本的な世界史の知識を確認しておいていただきたい。また、授業中には地図帳を持ってきてもらいたい。

成績評価の方法 成績は夏休みと年度末のレポートと、授業中に書いてもらう小レポートによって評価する。

参考書 石井米雄他『東南アジア史』全9巻、別巻1、岩波書店

その他 単に知識を入れるだけの講義にたくないの、活発な議論ができる授業にする予定である。

履修コード	049511
科目名	東洋史特講I〔古代史〕
担当者名	石井 仁

講義の到達目標(ねらい) いわゆる三国志には、3世紀末、西晋の歴史家、陳寿によって編纂された正史『三国志』と、14世紀の元末明初期に大衆芸能をもとに書かれた『三国志演義』とがあります。後者は脚色が施された小説であって史実ではありませんが、現代の日本では、中国史の専門家も含め、これをもとに三国時代の歴史が語られる場合が少なくありません。講義では、『三国志演義』の強い影響のもと、これまで誤解・曲解されてきた三国時代の歴史や人物像を再構成することを目的とします。受講者には、この講義を通して、歴史学研究の方法・手続きを学んで欲しいと思います。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (01～02) ガイダンス、三国志研究の可能性
(03～06) 魏晋南北朝史研究の基本問題
(07～13) 曹操に関する諸問題①曹操登場の背景
(14～15) 補論
(後期) (16～22) 曹操に関する諸問題②曹操の学問と教養
(23～28) 曹操に関する諸問題③後世の曹氏一族と曹操評価
(29～30) 補論

準備学習 三国時代の歴史、主要人物などについて、一通り勉強しておいて下さい。

履修上の留意点 三国時代(もしくは魏晋南北朝史全般)に関する基礎的な知識がなければ、専門的な問題を論じる講義内容を理解するのは困難です。また、当然のことながら、『三国志』『後漢書』『晋書』などの漢文史料を用いるので、漢文読解に関する基礎知識もあった方がよいでしょう。

成績評価の方法 レポート(複数回)の成績をもとに評価します。

教科書／テキスト 使用しません。配付プリントをもとに講義を進めます。

参考書 渡邊義浩『三国志研究入門』(日外アソシエーツ)、同上『諸葛亮孔明』(新人物往来社)、石井仁『曹操―魏の武帝』(同上)など。
なお、開講後、参考文献一覧を配付するほか、講義で随時紹介します。

履修コード	049611
科目名	東洋史特講II〔中世史〕
担当者名	中村 淳

講義の到達目標(ねらい) 前近代のアジアも、分断された歴史世界が並立した状態ではなく、また単純に「中国」が中心にあった時代と言うわけでもなかった。13～14世紀のモンゴル時代(モンゴル帝国・元朝の時代)の歴史を中心にして、中央ユーラシアの視点から世界史像を提示してみたい。受講生には、単なる知識の習得のみならず、既存の理解や価値観にとらわれることなく「人々の営み」をありのままに捉えることの重要性を理解してもらいたい。

講義の内容／授業スケジュール おおむね以下のような授業内容を予定している。
〔前期〕導入(地理・文字・言語・民族)、匈奴の時代、拓跋の時代、安祿山の乱、三国時代(唐・ウイグル・吐蕃)
〔後期〕キタイ時代、多元化の時代、モンゴル時代

準備学習 東洋史分野の中でもかなり特殊な話をする。講義内容を理解するためには、高校地歴の基礎知識を身につけていることが望ましい。世界史B・地理B程度で構わないので、しっかり準備して毎回の授業に臨んで欲しい。

履修上の留意点 一次史料を多く用いて講義を進めるので、ある程度漢文を理解できた方がよい。

成績評価の方法 毎回出席をとる。出来るだけこまめに確認テストを行いたい。出席・授業態度・筆記試験の結果を総合的に評価する。

教科書／テキスト 必要な史料はプリントで配布。

参考書 参考書については授業時に随時紹介する。

履修コード	049711
科目名	東洋史特講III〔近世史〕
担当者名	上田 裕之

講義の到達目標(ねらい) 明清時代(1368～1912年)の漢地(中国本土)の経済・財政・貨幣をめぐる諸問題について考察し、華々しい政治史的な事件の他にも様々な要因から複雑な影響を受けていた明清時代の漢地の歴史に対する理解の深化を目指します。

講義の内容／授業スケジュール [前期]
1. 明初の海禁・朝貢体制と里甲制／2. 明朝の北京遷都と銀財政／3. 明朝の北辺防衛と軍費増大／4. 日本・新大陸の銀と内外情勢の流動化
[後期]
5. 明清交替後の対外関係と交易／6. 清代中国と日本の交易と政治／7. 清朝の銅銭供給政策／8. 清代乾隆年間の好況とその後

準備学習 経済・財政・貨幣に関する特定のトピックを深く掘り下げるので、明清時代の通史的理解(高校世界史B程度)に関しては、受講学生各人の自主的な努力によってあらかじめ修得されていること(あるいは、最低でも、本講義の受講と並行して学習していくこと)が望まれます。本講義において論じる歴史の「多面性」や「意外性」は、まずもってオーソドックスな理解があってこそ、真に味わえるものだからです。

履修上の留意点 無断欠席の回数が全体の4分の1を超過した受講学生には、期末試験の受験を認めません。詳細は初回講義において通知しますので、初回講義には必ず出席してください。

成績評価の方法 無断欠席の回数が全体の4分の1以下の受講学生を対象として期末試験を実施し、その点数によって評価を決定します。期末試験の内容は、①語句説明5問(10個の選択肢から任意の5個を解答。各10点)、②論述問題2問(特定のトピックについて、指定された語句を用いながら、その経緯や意義を説明。各25点)とします。暗記を要求するものではありませんので、ノート等の持ち込みは認めますが、その代わりに、理路整然とした日本語で、聞かれたことに的確に答えられているかを、厳しく採点します。

教科書／テキスト 特に指定しません。

参考書 岸本美緒・宮嶋博史『明清と李朝の時代』中央公論新社、1700円、ISBN 9784122050549
その他の図書は、講義中に紹介します。

履修コード	049811
科目名	東洋史特講IV [近・現代史]
担当者名	藤谷 浩悦

講義の到達目標(ねらい) 前期は、19世紀の半ば、中国の華南、華中地方で起きた太平天国運動を題材としながら、歴史をどのように考えていったらよいかについて、様々な角度から言及します。具体的には、文化摩擦と変容、理念と現実、パーソナリティと社会、或いは歴史評価の変遷といった問題を取り上げます。
後期は、本と中国の近代を中心としながら、文化需要の異同や、発想の違い、展開の特徴などを考えるものです。題材は、茶やアヘン、都市、留学生、翻訳語、服飾や髪型など、日常生活に密着したテーマです。また、日本の史跡も紹介しながら、歴史を考えることの魅力に触れたいと思います。

講義の内容／授業スケジュール 前期：1. 民衆反乱の世界、2. 秘密結社と民衆、3. 民間宗教の系譜、4. 中国の試験地獄、5. 洪秀全の目覚め、6. 文化伝播と変容、7. 洪秀全と曾国藩、8. 太平天国の内紛、9. 理念と現実の差、10. 洪の死と曾国藩、11. 李秀成の供述書、12. 歴史評価の変遷、13. 歴史を学ぶ意味、
後期：1. 茶の世界史、2. 茶の需要と地域差、3. 病気と茶、4. 茶とアヘン、5. アヘン戦争、6. 日本の開国、7. 横浜の歴史と中華街、8. 中華街：日本の論理と中国の論理、9. 上海と横浜、10. 留学生と日本、11. 翻訳語とアジア、12. 服飾と髪型、13. 日本と中国の近代

講義が主体となります。毎回、授業に関する感想を書いていただき、次回以降の授業内容に反させたいと思います。

成績評価の方法 評価は、テスト6割、出席率4割の比率で行います。テストは、二回行います。ノートは持ち込み可能ですが、コピーしたものは認めません。

教科書／テキスト 教科書はありません。参考書は、授業中適宜指示します。

履修コード	049911
科目名	東洋史特講V [アジア諸民族史]
担当者名	野田 仁

講義の到達目標(ねらい) 多様な民族で構成される中央アジアの歴史的展開を概観し、とくにモンゴル帝国時代以降の政治・社会・文化の諸相を考察します。現代中央アジアの主要な信仰であるイスラームについても歴史の中での役割を含めてくわしく検討します。
前期では北方の遊牧世界と南方の農耕オアシス世界の違いを理解する事を主な目的とし、後期ではこの地域を取り囲む中国・ロシアなどのより大きな勢力との関係に注目しながら、近代の諸民族の活動に焦点を当てて考察を進める予定です。

講義の内容／授業スケジュール 前期
1: 授業計画の説明、中央アジアという地域の概略
2: 草原の遊牧世界の歴史展開
3: 農耕オアシス世界の歴史展開
4: 中央アジアの信仰生活
5: ソグド人の時代
6: 中央アジアのテュルク化とイスラーム化
7: モンゴル帝国と中央アジア
8: モンゴル帝国治下のイスラーム
9: 他者から見たモンゴル帝国
10: モンゴル帝国の継承政権 1
11: モンゴル帝国の継承政権 2
12: ティムール朝の崩壊とウズベクの国家
13: イスラームの聖者と権力
14: その後の見通しとまとめ
後期
1: 前近代中央アジア史の概観（前期の総復習を行います）、近現代史の諸問題について
2: ジュンガルの覇権と中央アジア
3: 清朝による中央アジアの征服
4: 清朝治下の中央アジア（新疆）(1)
5: 3ハン国とロシアによる中央アジアの征服
6: ロシアによる中央アジアの征服 (2)
7: ロシア帝国治下の中央アジアと改革運動
8: 清朝治下の中央アジア（新疆）(2)とグレートゲーム
9: 2つの革命と中央アジア
10: ソ連時代の中央アジア
11: 辛亥革命以降の新疆
12: 現代中央アジアのイスラーム信仰
13: 中央アジア諸民族の言語と文化
14: 中央アジア史のまとめ

準備学習 地図帳などで地理・地名を確認しておくとう理解が深まります。

履修上の留意点 中央アジア史だけでなく、ロシア史や中国史に関心を持つ人の履修も歓迎します。

成績評価の方法 レポート（授業期間中に計2回）に出席状況を合わせて総合的に評価します。

教科書／テキスト テキストは、講義中に配布するレジュメやプリントを基本とします。その他の文献については適宜指示します。

参考書 ・小松久男（編）『中央ユーラシア史』（新版世界各国史）山川出版社、2000年
・梅村坦『内陸アジア史の展開』（世界史リブレット（11））山川出版社、1997年
・間野英二ほか『内陸アジア』朝日新聞社、1992年

履修コード	050011
科目名	東洋史特講VI [アジア諸民族史]
担当者名	四日市 康博

講義の到達目標(ねらい) イスラーム教は成立以来、ユーラシア・インド洋海域世界に広く行きわたって世界宗教となり、各地域の歴史や文化、国際交流・地域間交流に大きな影響を及ぼした。現代でも世界情勢を考える際に、イスラーム諸国の動向は無視できない重要なファクターとなっている。本講義は東西ユーラシアにおけるイスラームの歴史的展開とアジアや地中海世界など周辺地域との接触によって、どのような影響を及ぼし、また影響を受けたのかという点を中心に講義をおこなう。
また、宗教としてのイスラームだけでなく、政治・経済・社会・文化の歴史からイスラームの理解をめざす。

講義の内容／授業スケジュール (1)イスラームとは何か、(2)イスラームの成立と正統ハリーファの時代、(3)イスラーム帝国の出現と解体、(4)アラブ世界とイラン世界、(5)トルコ・モンゴル遊牧世界とイスラーム、(6)モンゴルの衝撃とその影響、(7)イスラームにおける商業倫理と国際商業の展開、(8)イスラームと海域世界、(9)イスラーム都市論、(10)移動する人々：イブン=バットゥータとマルコ=ポーロ、(11)知識人と学術ネットワーク、(12)イスラームと巡礼、(13)アジアにおけるイスラームの展開、(14)イスラームの美術と文化交流、(15)イスラームの食文化、(16)イスラーム世界と現代社会
(※授業の進度や状況によって順番が前後する場合があります)

履修上の留意点 受講内容で取りあげるイスラーム文化に対して日本やアジアの社会・文化と異なる点・類似する点を考えてみる

成績評価の方法 レポートに加え、出席点・平常点で評価する。

教科書／テキスト 毎回授業時にプリントを配布する。適宜、画像資料・映像資料などを使用する。

履修コード	044901
科目名	東洋史文献史料講読I
担当者名	石井 仁

講義の到達目標(ねらい) 北宋の司馬光(1019-1086)によって編纂された『資治通鑑』(しじ・つがん)294巻は、周の威烈王二十三年(西暦紀元前403年)から、五代後周の世祖顯徳六年(紀元後959年)までの1362年間を編年体で叙述した歴史書です。司馬光は各時代の基本史料を収集整理し、事実と考えられる記事を採用しました。内容は政治過程を基調としつつも、社会経済・文化など、多岐にわたり、各時代の概況が通覧できるように工夫されています。さらに、元の胡三省が『資治通鑑』にほどこした精密な注釈(=胡注)は、単なる字句の解釈にとどまらず、政治制度・地理などの各分野ですぐれた見解を提示しています。
以上のような特色を兼ね備える『資治通鑑』の講読を通して、漢文史料の読解力を高めるとともに、研究のための実用書・工具書(辞典、年表、地図、索引類など)の使用方法や、文献の検索方法など、中国史研究に不可欠の基本知識と作業手順の習得をめざします。
本年度は、巻59・漢紀51・靈帝中平六年(189年)の条から読み始めます。

講義の内容／授業スケジュール テキストを受講者全員が輪番で漢文訓読します(1人3回程度担当)。
(前期) (01~02) ガイダンス
(03~13) 講読
(14~15) 補論
(後期) (16~28) 講読
(29~30) 補論

準備学習 三国時代の簡単な歴史や主要人物について、一通り勉強しておいてください。

履修上の留意点 予習・復習に十分な時間をとって講義に臨んでください。

成績評価の方法 各自、分担部分を責任をもって調べ、かつ正確に解釈し、発表したか否かを最大の評価基準とします。レポートを課すこともあります。

教科書／テキスト 中国・中華書局発行の『資治通鑑』点校本をテキストに使用します(コピーを配付)。

参考書 随時紹介します。

履修コード	045091
科目名	東洋史文献史料講読XI
担当者名	上田 裕之

講義の到達目標(ねらい) 清朝に帰順してその帝国統治に参画した明朝の遺臣に関する伝記史料をテキストとして受講学生全員による輪読を行い、丹念な史料の読解に基づいて歴史理解を構築するための能力を研鑽します。

講義の内容／授業スケジュール [前期]
第1~2講：漢文読解の基本事項の確認
第3~4講：明清交替期の概説
第5~15講：『清史列伝』の講読(途中から輪読形式)
[後期]
第16~30講：『清史列伝』の講読(輪読形式)

準備学習 前期の後半からは輪読形式とし、担当者には担当箇所の書き下し文および現代日本語訳を記したレジュメを作成し教員・他の受講学生に配布した上で発表してもらいます。発表に際しては、一般的なハンディサイズの漢和辞典はもちろんのこと、『大漢和辞典』をもチェックしてくることを求めます。なお、ハンディサイズの漢和辞典は全員、毎回、必ず持参すること。

履修上の留意点 無断欠席の回数が全体の4分の1を超過した受講学生は、評価の対象としません。詳細は初回講義において通知しますので、初回講義には必ず出席してください。

成績評価の方法 無断欠席の回数が全体の4分の1以下の受講学生を対象として、前期末および後期末に、その学期に担当したレジュメの訂正版の提出をレポートとして課します。評価は、発表レジュメ、発表内容、レポート(訂正レジュメ)、および他の受講学生の担当時における参加態度によって決定しますが、特に訂正レジュメ(講義において教員や他の受講学生から指摘された修正点がきちんと反映されているか)を重視します。

教科書／テキスト 講読箇所のコピーを配布します。

参考書 特にありません。

その他 輪読において、各人の年間の担当回数は受講学生の多寡によって左右されますが、受講学生が極端に少ない場合には、負担が過度にならないよう配慮します。

履修コード	045011
科目名	東洋史文献史料講読III
担当者名	中村 淳

講義の到達目標(ねらい) モンゴル時代(モンゴル帝国・元朝の時代)の歴史に関わる漢文を、補助資料を用いながら輪読します。漢字を普段から用いている日本人は、ややもすれば漢文を雰囲気を読んでしまうことがあります。本講読を通して、一文字一文字を大切にしながら史料を読む習慣を身につけ、同時に、モンゴル時代を研究する際の基本的な知識や技術を修得して下さい。また実際の担当や発表を通じて、スケジュール管理・目標管理、プレゼンテーションの基本を身に付けて下さい。

講義の内容／授業スケジュール 事前に、輪読の中心となる担当者を決めます。具体的なスケジュールは、受講者の人数がわかって初めて決まるので、授業開始時に受講者と相談して決めます。担当者は担当日に向け、担当箇所の漢文について、書き下しと日本語訳を作り、関連データを収集・整理し、レジュメを作成して授業に臨みます。当日はそのレジュメに基づいて報告をすることになります。また夏期レポートを課し、後期にそのレポートに基づいた研究発表を行なってもらいます。レジュメの作成方法や発表・報告の仕方は、授業開始時にガイダンスを行なって説明します。なお受講者が希望する場合は、漢文の他に英文で書かれた文章を講読の対象とする場合があります。昨年度は後期にラウンド『集史』の英訳などを講読しました。

準備学習 「漢文」に関して中学・高校で何を習ったのかを思い返して初回の授業に臨んで下さい。例えば、音読みと訓読み、漢和辞典の引き方や、返り点、再読文字、そのほか基本的な文法用語など。

履修上の留意点 出席を重視します。第1回から必ず出席すること。

成績評価の方法 出席点・平常点により総合的に判断します。

教科書／テキスト 必要な資料はコピーして配布します。

参考書 授業時に適宜紹介します。

履修コード	045031
科目名	東洋史文献史料講読V
担当者名	豊岡 康史

講義の到達目標(ねらい) 中国広州での貿易に関する漢文史料『粤海関志』の輪読を行います。中国の古典語である漢文読解能力の習得とともに、清代中国の海外貿易に関する理解を深めることを目指します。

講義の内容／授業スケジュール 梁廷枏(1796-1861)が編纂した『粤海関志』は、広東におかれた清朝の税関の記録です。17世紀からアヘン戦争直前の1833年までの約150年に関する広東における対外貿易管理体制が記されています。第1回でガイダンスを行ったのち、第2回から第5回までは、対外貿易を軸に明清時代史に関する概説を行います。以降は、受講者全員での史料講読を行います。講読に際しては、訓読および現代日本語訳を行います。

準備学習 高度な予備知識は求めません。むしろ講義での積極的な質問や発言を求めます。ただし、漢文に関しては事前に入念な予習が必要です。

履修上の留意点 漢和辞典を持参してください。

成績評価の方法 出席状況を含む平常点をもとに評価します。

教科書／テキスト 梁廷枏総纂・袁鐘仁校注『粤海関志 校注本』(広東人民出版社、2002年)。講読箇所のコピーを配布します。

参考書 岡本隆司『近代中国と海関』(名古屋大学出版会、2000年)。そのほか、講義内で適宜紹介します。

履修コード	045051
科目名	東洋史文献史料講読VII
担当者名	田中 靖彦

講義の到達目標(ねらい) 本授業では、史書『三国志』をテキストとした講読演習を通して、漢文の基礎と応用力を習得することを目指します。漢文読解の力をつけるのと同時に、曹操・諸葛亮・関羽・周瑜ら英雄豪傑たちの活躍を、原文で味わってみましょう。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス／第2回：第1課「黄巾の乱」／第3回：第2課「董卓の専横」／第4回：第3課「曹操の挙兵」／第5回：第4課「孫堅の活躍」／第6回：第5課「劉備と関張」／第7回：第6課「袁紹の覇権」／第8回：第7課「官渡の戦い」／第9回：第8課「江東を託す」／第10～11回：第9課「三顧の礼」／第12回：第10課「長阪の忠臣」／第13～14回：第11課「赤壁の戦い」／第15回：第12課「劉備の入蜀」／第16～17回：第13課「漢魏革命」／第18回：第14課「遺孤を託す」／第19～20回：第15課「出師の表」／第21回：第16課「泣いて馬謖を斬る」／第22～23回：第17課「秋風五丈原」／第24～25回：第18課「正始の政変」／第26～27回：第19課「蜀漢の滅亡」／第28～29回：第20課「三国統一」／第30回：まとめ

準備学習 演習形式の授業ですので、予習を行うことを心がけて下さい。

履修上の留意点 三国志に関する予備知識は必須ではありません。三国志に限らず、中国史に関心をお持ちの方を広く歓迎します。演習形式の授業ですので、積極的に参加して下さい。

成績評価の方法 平常点によって評価します。試験は行いません。

教科書／テキスト 石井仁・渡邊義浩・津田資久・伊藤晋太郎・田中靖彦『漢文講読テキスト 三国志』白帝社、1700円、ISBN978-4-89174-891-3を使用します。

参考書 講義内で適宜指示します。

履修コード	045071
科目名	東洋史文献史料講読IX
担当者名	石川 重雄

講義の到達目標(ねらい) 本講義は清の趙翼『廿二史劄記』を読みながら、史料学や史料批判などについて学ぶことを目的といたします。まず各自が関心のある項目をいくつか選択し、原文筆記、返り点、訓読、日本語訳をつくってもらいます。その過程で趙翼が引用した記事と正史の記事との校合、人物・地名・官職・歴史事項等の検討をおこない、簡単な「訳注」を完成させたいと思います。このほか講義の合間に、「正史のはなし」「暦のはなし」「年号のはなし」「諱を避ける」「用語・史料データベースのはなし」等の事項についても言及する予定です。

講義の内容／授業スケジュール 【前期】
 1) テキスト・辞書の説明
 2) 担当者の輪読、発表
 3) 正史のはなし
 4) 用語・史料データベースのはなし
 5) 訳注のレジュメの作成
 【後期】
 6) 担当者の輪読、発表
 7) 年号のはなし
 8) 諱を避ける
 9) 訳注レジュメの作成、総括

準備学習 毎回、史料の予習をお願いします。質問事項等があれば各自整理しておいて下さい。

履修上の留意点 担当者を決めて発表形式です。各自予習が必要となります。講義の際には適当な漢和辞典を持参して下さい。

成績評価の方法 平常の発表内容(4割)、年2回の提出レジュメ(6割)によって行います。総合評価においては出席率も勘案いたします。

教科書／テキスト テキストは、講義時にプリントを配布いたします。

参考書 必要に応じてそのつど紹介します。

履修コード	047511
科目名	日本近世史
担当者名	中野 達哉

講義の到達目標(ねらい) 近世の領主支配と社会について理解することを目的とする。具体的には、天正18年(1590)の関東転封から江戸幕府開幕までの徳川家康の領国整備の過程を中心としながら、享保期までを見通し、当該期にかかわる史料を取り上げて講義する。

講義の内容／授業スケジュール 前期
 (1) 授業についてのガイダンス。
 (2・3) 序. 北条氏の滅亡と徳川家康の関東転封①惣無事令と豊臣政権の小田原北条氏攻め。(4・5) ②徳川家康の江戸入府。(6) I. 江戸・江戸城の建設①近世初頭の江戸。(7・8) ②江戸城の建設。(9・10) ③家臣団への屋敷下賜と江戸の武家屋敷。(11・12) ④埋め立てと町の建設。(13・14) ⑤町の支配と住民。(15) ドン・ロドリゴの見た慶長期の江戸。
 後期
 (16) II. 家臣団の知行割と幕藩体制への展開①知行割の実施と基本方針。(17・18) ②知行割の実施過程。(19) ③拠点・要所への家臣配置。(20) ④蔵入地の設定。(21・22) ⑤知行宛行の実際。(23・24) III. 検地と在地支配①近世の検地と徳川初期検地の特徴。(25・26) ②武蔵国の検地実施過程。(27・28) ③検地と知行割・石高制。(29・30) ④代官頭と在地支配。

履修上の留意点 「知識としての日本史」を深めるために受講するのではなく、近世の社会を大局的に捉え、考えるための糧とすべく講義を受講して欲しい。

成績評価の方法 基本的には、年度末の定期試験により評価する。試験では、史料の解説と論述問題を課す。なお、授業の出欠状況も若干参考とする。

教科書／テキスト 教科書はなし。必要な資料は、適宜プリントして配布する。

参考書 授業中適宜指示する。

履修コード	047611
科目名	日本近代史
担当者名	熊本 史雄

講義の到達目標(ねらい) いうまでもなく、歴史を学ぶにおいては「問」が存在します。近代史に限って言えば、アジア太平洋戦争はなぜ起こったのか、は大きな「問」のひとつに違いないでしょう。これと関連して、「国民国家」が如何にして建設されたのかという「問」もまた、近代史を学ぶ際の大きな「問」です。

西欧文明との接触を契機として始まった日本の近代化は、憲法制定や帝国議会設置といった政治体制の整備にとどまらず、産業、経済、教育、芸術、さらには文化といった生活レベルにまで至るものでした。その過程は、伝統と変革と建設の三つ巴の混乱を伴いながら、西洋文明すなわち異文化をいかにして受容するかとの課題に対応し続けたものと言えるでしょう。そしてその先には、強靱な「国民国家」を建設する、という明治国家が掲げた大きな目的があったのです。

そこで本講義では、「国民国家」建設における「内」と「外」、すなわち「国民」を創り出すべく展開された国内事業とりわけ教育政策と、対外関係のなかで「帝国日本」の位置を模索した外交につきそれぞれ史料を交えて講述し、先の「問」に答えていくための視座を提供していきたいと考えています。

まず前期では、西洋文明の摂取とそれに対向すべく喧伝された日本の伝統文化のなかで模索を続けた近代日本の足跡を、「文学(自我の確立)」と「国語(ことば)」を切り口として考察します。とくに、「国語教育」が担った「国民」創出過程を繙くことによって、アジア進出を促した論理やナショナリズムの問題にも言及していきます。

かわって後期では、「国民国家」建設作業と表裏一体でもあった、日本の外交につき論じていきます。とくに、キーとなる人物を探り上げてその外交思想を解明し、近代日本外交が抱え持った、多様で膨らみのある言説空間と足跡を、史料を交えて講述していきます。これらの検討を通じて、近代日本が対峙した対外関係の課題が浮かび上がってくるでしょう。それはすなわち、「なぜ、日本は無謀な戦争を起こさねばならなかったのか? そして国民の多くは、なぜそれを支持したのか?」という問を解くヒントになるはずで

講義の内容／ 授業スケジュール	1回 授業の進め方、参考文献などについての説明 2～4回 近代日本の西洋体験 ①～③ 5～8回 「国語」の創出と国民国家形成 ①～④ 9～12回 「国語」の海外進出と文化統治政策 ①～④ 13回 前期のまとめ 14回 中間試験 《以上前期》 15回 前期の総括(中間試験返却)／後期の授業計画について 16回 山縣有朋の「外交政略論」 17回 内藤湖南の「アジア主義」 18回 内村鑑三の「非戦論」 19回 宮崎滔天の「侠」と中国 20回 牧野伸顕の「新外交」論 21回 幣原喜重郎の「協調外交」 22回 石橋湛山の「小日本主義」 23回 矢内原忠雄の「植民地政策」論 24回 佐藤尚武の「文化外交」論 25回 石原莞爾の「最終戦争論」 26回 吉田茂の戦後構想 27回 まとめ ～国民国家形成と近代日本～
----------------------------	--

履修上の留意点	歴史には「問」がある。「暗記する歴史」ではなく「考える歴史」、「発見する歴史」を。
成績評価の方法	前・後期2回の試験成績(70%)、出席状況および授業への取り組み姿勢(30%)をもとに総合的に評価する。
教科書／テキスト	とくに指定しない。
参考書	伊藤 隆『昭和史をさぐる』(朝日文庫)1991年 中野目徹『書生と官員-明治思想史点景-』(汲古書院)2002年 細谷千博『日本外交の軌跡』(NHKブックス)1993年 三好行雄編『漱石文明論集』(岩波書店)1986年 E. H. カー著 清水幾太郎訳『歴史とは何か』(岩波新書)1962年 イ・ヨンスク『「国語」という思想』(岩波書店)1996年
その他	講義形式で進め、レジュメと史料を毎回配布する。

履修コード	044301 044302
科目名	日本考古学概説
担当者名	酒井 清治

講義の到達目標(ねらい) 日本の考古学は発掘も膨大にあり日々新しい資料も蓄積されている。その資料はどのような意味があるのか、資料からどのようなことが分かるのか、日本の考古学の中に位置づけ考古学とは何かを理解してもらう。

講義の内容／ 授業スケジュール	考古学の研究史、研究法および、遺跡・遺物を時代を追って取り上げ、日本考古学を時代史的に概観する。(1～2)考古学とは何か、(4～6)考古学の研究史、(7～10)資料解釈の研究法、(11～14)年代論、(15～18)旧石器時代、(19～22)縄文時代、(23～26)弥生時代、(27～30)古墳時代。前期は授業の初めに最新発掘資料の写真・図を見ながら考古学の理解を深めてもらう。
準備学習	博物館や図書館で考古学資料を見ることにより、考古学の時代的特色を把握することができ、講義の内容を理解しやすいので実施して欲しい。
履修上の留意点	遅刻厳禁、私語厳禁。
成績評価の方法	定期試験とレポートで採点。平常点、出席状況も加味する。
教科書／テキスト	教科書は特にないが、授業で逐次資料を配付する。
参考書	安藤雅雄『考古学キーワード』(有斐閣)2100円 ISBN978461058774 山岸良二『入門者のための考古学教室』(同成社)1900円 ISBN9784886213723C1021 鈴木公雄『考古学入門』(東大出版社)2940円 ISBN9784130230520 そのほか授業中に解説しながら紹介する。
その他	講義の中でOHPを使用し、図や写真あるいは実物資料を利用し理解を深める。

履修コード	047311
科目名	日本古代史
担当者名	瀧音 能之

講義の到達目標(ねらい)	原始～平安時代への理解を深めるとともに、古代に生きた人々の生活、風習、信仰などについて考え、各人の能力のアップをはかることを目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	古代の歴史を単に通史的に追うのではなく、それぞれの時代の中の興味深いテーマを設定して、そこから古代史をみつめたいと思います。 (1) ガイダンス (2) ～(14) 原始から奈良時代前期にかけての歴史 (15) 確認テスト (16) 確認テストの解説 (17) ～(29) 奈良時代後期から平安時代にかけての歴史 (30) 確認テスト
履修上の留意点	講義の日だけに古代史を勉強するというのではなく、日頃から新聞・雑誌・インターネット・TV番組などで報じられる古代史の新発見や情報に反応する習慣を養っておいて下さい。
成績評価の方法	2回おこなう確認テストを重視します。それに平常点(出席や発言など)を加味して評価します。その割合は、テスト85パーセントに平常点15パーセントくらいと考えて下さい。
教科書／テキスト	初回の講義のさいに指示しますので、受講希望者は、欠席しないようにして下さい。2000円くらいのを予定しております。
参考書	瀧音能之『古代史の舞台裏』2007年刊(青春出版社)1000円+税
その他	古代史を考えてみよう、という熱意と興味のある学生の受講を期待します。

履修コード	056401 056402
科目名	日本史概説
担当者名	小泉 雅弘

講義の到達目標(ねらい)	近世から近代の日本の歴史について概説する。その際、政治・社会・文化・経済・外交などの関連性を重視したい。
講義の内容／授業スケジュール	前期(1～15)では幕藩体制の成立から幕末期までを対象とし、近世国家の形成過程と解体について講義する。後期(16～30)では、明治維新を契機とする近代国民国家の成立、展開過程を取り扱う。
準備学習	授業中に紹介する文献を熟読すること。
履修上の留意点	歴史的事象を個別のものとして捉えるのではなく、広い視野で考える姿勢を身につけてほしい。
成績評価の方法	定期試験で評価し、出席状況を加味する。
参考書	講義内容にあわせて随時紹介する。

履修コード	056301 056302
科目名	日本史概説
担当者名	野尻 かおる

講義の到達目標(ねらい)	本講義は、歴史学、考古学を始めとする人文科学の研究を志す学生、または将来教職につくことを希望する学生に対し、下記の事項を通して、歴史を研究すること、または日本史を教授することの意義を理解し、基礎的な知識を身に付けることが目的である。講義に当たっては、古文書・記録・編纂物・金石文等の史料を中心に考古資料、絵画資料、民俗資料等を使用して進める。また、近世・近代を研究するに当たって必須の課題である身分差別の歴史もあわせて指導する。
講義の内容／授業スケジュール	一、空間から見た近世近代〔都市とその近郊等を事例とする〕(1～6)、二、モノから見た近世近代〔石造物等を事例とする〕(7～12)、三、人から見た近世近代〔生と死等を事例とする〕(13～18)、四、絵画資料に現れた近世近代〔景観や年中行事等を例に〕(19～24)、五、社会組織から見た近世近代〔祭礼・講等を事例に〕(25～30)
履修上の留意点	質問等の発言は歓迎するが私語は慎む事。
成績評価の方法	定期試験及び出席状況
教科書／テキスト	講義資料を配布する。
参考書	『新版県史13 東京都の歴史』1997年(山川出版)、1,995円、978-4-634-32130-4、地方史研究協議会編『江戸・東京近郊の史的空間』2003年(雄山閣)、5,985円、ISBN 4-639-01825-8、メタ・アーケオロジ研究会『考古学リーダー3 近現代考古学の射程～今なぜ近現代を語るのか～』、2005年(六一書房)、ISBN4-947743-25-5、都市史研究会『年報 都市史研究』1～17、1993年～2010年、山川出版、3,880円、ISBN 4-634-61910-5、斎藤洋一・大石慎三郎講談社現代新書『身分差別社会の真実―新書・江戸時代(2)』1995年、(講談社)、735円、ISBN978-4-06-149258-5
その他	講義資料は原則として講義毎に配布する。欠席した分の資料は用意しないので注意の事。数回課題・アンケートを実施する。

履修コード	043711
科目名	日本史概説
担当者名	松本 信道 菅野 洋介 岩崎 孝和 浅倉 直美

講義の到達目標(ねらい) 日本の古代～近・現代の歴史的展開の過程を講述することにより、日本歴史への関心を高め、歴史学習の基礎を学び、次年度以降の専門科目をより深く理解するための一助とすることを目的とする。本講座では、それぞれの時代の政治・経済・文化などの諸様相について、関連史料の具体的な解釈を通じて概観したい。

講義の内容／授業スケジュール

(1) ガイダンス
(2) 日本国家の起源、(3) ヤマト政権の成立と展開、(4) 大化改新と古代国家の確立、(5) 律令国家の構造とその特質、(6) 奈良時代の政治と天平文化、(7) 平安王朝の成立とその文化、(8) 摂関政治の展開と貴族の生活(以上、松本信道担当)
(9) 院政と平氏政権、(10) 鎌倉幕府の成立、(11) 執権政治と武士の社会、(12) 蒙古襲来と鎌倉幕府の滅亡、(13) 室町幕府の成立、(14) 惣村の形成と農業・手工業の発達、(15) 室町幕府の衰退と戦国大名(以上、浅倉直美担当)
(16) 徳川政権の確立、(17) 近世の対外関係、(18) 近世村の世界①～各地の地方史料からの考察、(19) 近世村の世界②～各地の寺社史料からの考察、(20) 近世の思想と文化、(21) 近世の都市世界、(22) 転換する近世社会(以上、鈴木将典担当)
(23) 幕末の動乱と明治維新、(24) 自由民権運動と明治憲法体制の成立、(25) 日本資本主義の成立と発展、(26) 近代文化の形成と発展、(27) 大正デモクラシーと第一次世界大戦、(28) ファシズムの台頭と第二次世界大戦、(29) 東西冷戦体制と戦後日本(以上、岩崎孝和担当)
(30) まとめ

履修上の留意点 受動的でなく、主体的に学習してほしい。

成績評価の方法 各担当教員の授業期間内に小テストを4回実施し、それらの総合点で成績を評価する。

その他 授業の方法は講義形式で進める。

履修コード	054001
科目名	日本史学演習I
担当者名	久保田 昌希

講義の到達目標(ねらい) 本講座は、特定の史料の講義を受講者自身が分担し発表形式で行い、他の受講者との内容討論を行うことによって、受講者(発表者)自身はもちろん受講者全体の研究方法や問題意識の高揚を目的としている。積極的に取り組んでほしい。

講義の内容／授業スケジュール 本講座では数年来、戦国大名とくに東国戦国大名(今川・武田・北条・上杉氏)の史料を対象としている。その理由は発給文書の数も多く、内容も多岐にわたり、しかも研究史としての蓄積も比較的多いからである。発表者には一点の文書を中心に、関連史料や関連論文を通して、できるだけ調べてくることを課している。この過程は来るべき卒論への準備段階として、大きな意味をもつであろう。
年間を通して、毎時間受講者による発表と討論が基本となる。順番を決めそれに従っての発表となる。(1・2)ガイダンス、(3～30)発表ならびに討論

履修上の留意点 留意点は上述の「講義の内容」項目と重なる。なお場合により補講を実施する。

成績評価の方法 定期試験は行わない。発表等の内容、提出レポート、出席状況などによる。

教科書／テキスト 本講座用に作成した翻刻史料として、『東国戦国大名文書』を配布する。これが年間を通して基本的なテキストとなる。

参考書 適宜紹介する。大いに図書館を利用してほしい。

履修コード	053901
科目名	日本史学演習I
担当者名	熊本 史雄

講義の到達目標(ねらい) 昭和期を中心とする近代日本の政治と外交につき、配布史料や課題図書を読解、検証する作業を積み重ねること、歴史像を自ら構築する力を養う。これら作業を、翌年に控えた卒業論文作成の準備に役立てたい。

講義の内容／授業スケジュール このゼミでは、4年生時に執筆する卒業論文の作成準備を目的として、ゼミ生による発表・報告を中心に進めていくこととする。
ちなみに、過去のゼミ生による卒業論文では、近代日本の外交史、政治史にとどまらず、軍事史、経済史、思想史、文化史、社会史、メディア史(報道、宣伝、映画などを含む)、教育史、女性史など、バラエティーに富んでいる。ゼミ生自身の興味や関心を最大限に尊重するので、卒業論文執筆には真摯に取り組んでいただきたい。

本ゼミの年間計画は以下のとおり。
前期は、まず前半で、担当教員より①ゼミの運営方針と計画、②日本近代史を学ぶための基礎的事項の説明(公文書の読み方の指南など)、③「工具書」、④図書館の利用方法、⑤レジュメの作り方などにつき説明する。後半では、『日本の時代史』(吉川弘文館)の近現代史相当分(第21～26巻)から、報告者が各自で希望する論文(1本)を選んで報告する。
後期は、各自が興味をもつテーマにもとづき、当該分野の先行研究(論文3本)を読み、レジュメ(論点を独自に設け史料に基づきながら)を作成のうえ報告する。

履修上の留意点 配布史料や課題図書の参照指定箇所には、必ず事前に目を通すように。授業冒頭には、配付史料・図書に対する感想や問題点、疑問などを、「1分間コメント」として参加者全員に手短かに述べてもらう。

成績評価の方法 出席、報告内容、授業態度などを基に総合的に判断する。

教科書／テキスト 適宜史料を配布する。

参考書 適宜紹介する。

履修コード	053701
科目名	日本史学演習I
担当者名	小泉 雅弘

講義の到達目標(ねらい)	幕末から明治期を対象とし、受講者が当該期の研究方法を習得することを目的とする。さらに、討論を通じて日本近代史に関する理解を深める。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期(1～15)は、田中彰編『近代日本の軌跡1 明治維新』と『日本の時代史』20～23の中から各自が興味のあるテーマを選び、概説発表を行う。後期(16～30)は、各自が『幕末維新新論集』全12巻や『展望 日本歴史』17～20などに掲載されている論文を講読し、担当者による報告、受講者全員による討論を行う。これらを通じて、卒業論文作成の準備としたい。 なお、夏季にゼミ合宿を実施し、ゼミ合宿では上記の発表のほか、歴史に関する理解を深めるため、博物館等の文化施設の見学を行う。
準備学習	なるべく多くの論文を自主的に講読すること。
履修上の留意点	報告・討論での積極的な発言を期待する。
成績評価の方法	出席状況、発表・発言内容、学習態度などにより総合的に評価する。
教科書／テキスト	該当資料をプリントして配布する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	053601
科目名	日本史学演習I
担当者名	瀧音 能之

講義の到達目標(ねらい)	古代史料を受講者に割りあてて、それについての報告を通して古代史への理解および報告のやり方を学ぶことを目的とします。あわせて次年度の卒業論文作成の足がかりとすることもねらいとします。
講義の内容／ 授業スケジュール	『日本書紀』をテキストにして、各人の報告を中心とした内容を考えています。 (1) 『日本書紀』の内容について講義します (2～14) 各人もしくはグループによる割りあてられた部分の発表 (15) 前期のまとめ (16) ビデオ教材による学習 (17～29) 各人もしくはグループによる発表 (30) 後期のまとめと次年度の卒業論文のテーマの仮報告
履修上の留意点	演習Iは原則として、演習IIへと連動していますので、古代史を卒業論文に選ぼうということを決めて履習するようにして下さい。履修者は、初回の授業に必ず出席して下さい。
成績評価の方法	演習は、学生が報告などを通して、より主体となって展開していく授業形式ですので、報告の内容を重視します。それと同時に他者の報告をどれくらいよく聞き、それに対して意見を述べることもできるかという点も重視します。その割合は報告の内容70パーセントに他者の報告への対応力30パーセントと考えて下さい。
教科書／テキスト	プリントを配布します。
参考書	瀧音能之『神々と古代史の謎を解く古事記と日本書紀』2005年刊(青春出版社)750円+税
その他	自分の意見をしっかりと述べると共に他者の意見をききとりそれにコメントする熱意のある学生の参加を期待します。くれぐれも「おつや」のような場にならないようにして下さい。

履修コード	053401
科目名	日本史学演習I
担当者名	中野 達哉

講義の到達目標(ねらい)	史料の解説・分析力、関連資料・文献の調べ方、先行研究の把握・批判力など、日本近世史(織豊政権期～幕末期)を研究する上で基礎となる知識や技術の習得を目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	日本近世史の史料は各地に所在し、しかも膨大な量があり、その多くは資料集などの形で刊行されていないのが現状である。そのため、私たちが研究を進めようとする時、史料調査(史料の発掘)や「くずし字」で記された未解読の古文書を読むことが必要となる。 この点を踏まえ、前期にはくずし字で記された史料を取り上げて講読し、古文書に慣れるとともに、近世の社会についての基礎的な知識を身につける。講読は受講者が分担して解読し、関連資料・文献を調べ、授業で発表・討議する。後期は、各自が研究テーマを設け、研究史の整理と研究課題についてまとめ、授業で発表・討議する。なお、後期授業での発表の準備として夏期休暇中にレポートを課す。 前期 (1) 授業についてのガイダンス。(2) テキスト『朝野旧聞哀藁』についての解説と解読担当部分の振り分け。 (3～14) 受講者によるテキスト講読と発表・討議。(15) 夏期ゼミ合宿・古文書調査特別実習についての案内。 後期 (16) 発表方法についてのガイダンスと発表順の決定。(17～29) 研究発表と討議。(30) 卒論発表ゼミ合宿についての案内。
準備学習	前期の講読については、担当でない者も必ず予習すること。
履修上の留意点	前期・後期とも積極的に議論に参加すること。
成績評価の方法	出席状況、発表内容、討議への参加度、受講態度、夏期レポートの内容をもとに総合的に評価する。定期試験は行わない。
教科書／テキスト	教科書は使わない。前期のテキストについてはプリントを配布する。
参考書	適宜紹介する予定。
その他	年度末、定期試験終了となる1月末に、3・4年生合同で卒業論文発表ゼミ合宿を行うので、必ず参加すること。

履修コード	053501
科目名	日本史学演習I
担当者名	廣瀬 良弘

講義の到達目標(ねらい) 中世史料の講読を通じて、中世の文化、すなわち戦乱の世をしたたかに生きた人びとの生活・文化・宗教等について考えます。人びとのものの考え方、慣習、禪と能・禪と食文化・禪と庭園、主従の関係、男女の関係、人びとの信仰と神や仏などについても考えたいと思います。例えば、中世の村々の寺院は文字通り駆込み寺化しておりましたが、どのような人物が駆込んで身の安全を図ろうとしたのでしょうか。敗戦者・殺人犯・離縁希望者・逆心者(反逆者)・博徒など様々です。また、「女房の密懐」(不倫)にプライド高い男たちはどのように対応したのでしょうか。戦国大名は家臣同士が争うような「困った」問題にいかに対応しようとしたのでしょうか。史料に基づく事実の究明はとても興味深いものです。少し難しいですが、すぐにおもしろくなる授業にしたいと思います。

講義の内容／授業スケジュール 室町幕府法や戦国大名の分国法の中から不入・走入り(駆込)・無縁所・密懐(不倫)に関する文化・宗教・生活に関する法を読み説いて行きます(1~20)。戦国時代に嫁ぐ者に対して、求められる「嫁」像を説く「幻庵覚書」、弾丸が飛び交った乱世を生き抜いた「おあむ」「おきく」の物語などを読み進める(21~30)。

履修上の留意点 最初は少し難しいが、すぐに興味深いものになります。探究心をもって史料に臨んでほしいと思います。

成績評価の方法 担当した史料に対する発表状況、他者の発表に対する質問等での積極的な参加などを考慮します。試験は行いません。

教科書／テキスト 随時、史料のコピーを配布します。

参考書 随時紹介してゆきますが、『くずし字解読辞典』(東京堂出版)2,200円などがあるとよいと思います。

履修コード	054701
科目名	日本史学演習I
担当者名	松本 信道

講義の到達目標(ねらい) 日本古代史の史料の輪読により、史料読解力の養成と史料を通して当該時代の歴史的状況を把握することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 前期の(1)~(15)回は、『日本後紀』をテキストとして用い、輪読しながら平安時代初期の政治・経済・文化の諸様相について再検討してみたい。後期の(16)~(30)回は、卒業論文作成の準備過程として正倉院文書・木簡・金石文・律令その他の性格の異なる史料を輪読し、史料読解力を養成するとともに、文献の検索・収集・読解の方法と研究の進め方などについても指導する。

履修上の留意点 受講生は必ず予習して出席すること。

成績評価の方法 平常点と出席点の総合で行う。

教科書／テキスト 当該部分をコピーして配布します。

参考書 『新字源』(角川書店)

その他 授業の方法は輪読と討論のゼミ形式で行う。

履修コード	053801
科目名	日本史学演習I
担当者名	湯浅 隆

講義の到達目標(ねらい) 日本近世史のうち、都市・文化・宗教などのテーマを中心とした演習となります。具体的なテーマに基づいて、先行する研究成果の整理、検討すべき課題の探索、史料に接し文言の解釈、歴史像の構築などを行っていきます。

講義の内容／授業スケジュール 前期(1~3)江戸時代社会のありようを復習します。(4~6)松代藩政史にかんする先行研究を検討します。(7~15)『日暮硯』を輪読しながら、江戸時代後半の社会のありようを大きく把握することをめざします。後期(16~22)江戸町方にかんする文献史料を活字本で輪読し、近世史研究の実際に触れていきます。(23~30)各自の卒業論文作成を念頭におき、課題の絞り込みを行います。

準備学習 授業の内容を見据えて、質問を必ず準備してから臨むようにしてください。

履修上の留意点 『日暮硯』(岩波文庫)は4月授業開始前に入手し、78ページまでは読んでおいてください。

成績評価の方法 授業中の発表・討論における発言に基づきます。

教科書／テキスト 前期は『日暮硯』(岩波文庫)。後期はプリントを配付します。

参考書 その都度、提示します。

その他 教場における授業に加えて、都内もしくは近郊の図書館・博物館などへ実踏に出かけます。

履修コード	055401
科目名	日本史学演習II
担当者名	久保田 昌希

講義の到達目標(ねらい) 本講座では、卒業論文作成にむけての指導を目的とする。中心は受講者各自の卒論テーマにもとづく発表で、討論を受講者相互で積み重ねつつ、各自が卒論内容の充実と発表・討論の「力」をそなえる「場」としたい。この過程で論題の検討・研究史の整理・研究視点の設定・史料収集・史料の検討と分析・論文叙述など、一つ一つの段階を辿ることになる。卒業論文の有意義な結実を期待する。

講義の内容／授業スケジュール (1)卒論作成へのガイダンス、(2~4)卒論テーマの検討、(5~9)研究史の整理と関連史料の検討・論点の提示、(10)卒論論題の決定、(11~15)章節構成の内容検討、(16~20)卒論作成の進捗による内容発表I、(21~22)章節構成の再検討、(23~25)卒論作成の進捗による内容発表II、(26)卒論叙述への技術的な指導、(27~29)卒論の添削から完成・提出、(30)卒業論文を書き終えてのガイダンス

準備学習 卒業論文執筆・提出に向けて、研究関心を高めておく。そのためには、日頃から関連論文を集めつつ、学ぶことや、関連資料の収集・分析など、自身で対応につとめてほしい。その成果は発表に現れる。頑張ってください。

履修上の留意点 卒業論文は、本学科に学んだ結果の最たるものでもある。大いに尽力してほしい。

成績評価の方法 定期試験は行わない。発表の内容、提出レポート、出席状況などを基本に、卒論作成への取り組み過程も見守っていく。

教科書／テキスト 各自のテーマによって異なる。不明な点については適宜紹介する。

参考書 同上

その他 講座の時間以外でも、必要に応じて指導を実施する。

履修コード	055301
科目名	日本史学演習II
担当者名	熊本 史雄

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文作成の指導を主として行う。 3年時の「演習I」に引き続き、各自で卒論テーマを決め、レジュメ報告を行う。 前期は、章構成を提示した上で、報告する。 後期は、節構成を提示した上で、報告する。 これらを報告を通じて、討論するとともに、卒業論文作成の指導を行う。
講義の内容/ 授業スケジュール	前期の前半は上記についての解説と先行研究の確認を行う。前期の後半より後期にかけて、受講生各自が報告を行い、それに基づき参加者全員で討論を行う。
履修上の留意点	各自の選んだ研究テーマに真摯に取り組んで欲しい。
成績評価の方法	報告、授業態度などを基に総合的に判断する。

履修コード	055101
科目名	日本史学演習II
担当者名	小泉 雅弘

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文作成の指導を通じ、幕末～明治期における諸問題について検討する。
講義の内容/ 授業スケジュール	受講者各自が研究テーマに基づいた発表を行う。前期(1～15)は研究史の整理や史料紹介、後期(16～30)は卒業論文の内容を踏まえて発表し、受講者全員で討論を行う。 なお、夏季にゼミ合宿を実施し、ゼミ合宿では上記の発表のほか、歴史に関する理解を深めるため、博物館等の文化施設の見学を行う。
準備学習	なるべく多くの論文を自主的に講読すること。
履修上の留意点	卒業論文でオリジナルかつ説得力のある論文を書くということは、社会に出て必要とされる能力を身につけることである。常に問題意識を持つこと。
成績評価の方法	出席状況、発言内容、学習態度などにより総合的に評価する。
教科書/テキスト	指定しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	055001
科目名	日本史学演習II
担当者名	瀧音 能之

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の作成を目的とします。各人の卒業論文のテーマに基づいた報告を中心にして、あわせて発表・討論の方法の習得をはかります。
講義の内容/ 授業スケジュール	各々の受講生の卒業論文を素材にして、順次報告をおこなってもらい、古代史の諸テーマへの理解を深めるようにします。 (1) ガイダンス (2～4) 報告形式による各人の卒業論文の題目の決定 (5～14) 各人の卒論の章立てをめぐる報告 (15) 前期のまとめ (16～20) 各人の卒論の目次についての報告 (21～30) 各人の卒論の「はじめに」についての報告
履修上の留意点	卒業論文の作成過程を素材とした演習をおこないますので、古代史の卒業論文を書く学生が履修して下さい。なお、全員の卒業論文は、ゼミ卒業論文集として1冊にまとめて卒業式に各人に配布する予定です。
成績評価の方法	各人の報告内容を重視します。それに他者の報告をどれくらいよく聞き、それに対してコメントを述べるができるかという点も重視します。その割合は、報告の内容70パーセントに他者の報告への対応力30パーセントと考えて下さい。
教科書/テキスト	各人ごとに対応します。
参考書	各人ごとに指導します。
その他	最後まであきらめないで努力する学生の参加を期待します。

履修コード	054801
科目名	日本史学演習II
担当者名	中野 達哉

講義の到達目標(ねらい)	大学生活での尤大きな成果の一つとなる卒業論文の作成とともに、論理的に考察・論述する力を身につけることを目的とする。そして、それを歴史研究のみならず、社会生活においても役立てて欲しい。
講義の内容/ 授業スケジュール	授業は受講者による卒業論文についての発表と質疑応答を中心に進めていく。 前期 (1) 授業についてのガイダンス、受講者の発表順の決定。(2～6) 準備発表と卒業論文のテーマ・論題の決定。 (7) 卒業論文の章節構成についての指導。(8～15) 卒業論文中間発表I。 後期 (16) 卒業論文の書き方についての指導(17～25) 卒業論文中間発表II。(26～28) 卒業論文執筆についての個別指導。(29・30) 卒業論文発表ゼミ合宿について。
履修上の留意点	本講座は日本近世史(織豊期～幕末期)を対象とする。第1回目の授業において、確認の卒業論文の方向性について考え、あわせて発表順(日程)も決めるので、必ず出席すること。
成績評価の方法	授業での発表と質疑応答、出席状況をあわせて総合的に評価する。定期試験はなし。
教科書/テキスト	教科書はなし
その他	授業時間外にも必要に応じて、個別に卒業論文指導を行う。 年度末、定期試験終了の1月頃に卒業論文発表ゼミ合宿を3・4年合同で実施する。また、夏期のゼミ合宿などについては受講者と相談して考えたい。

履修コード	054901
科目名	日本史学演習II
担当者名	廣瀬 良弘

講義の到達目標(ねらい)	史料の読解・分析力を養い、より高い水準の卒業論文の完成をめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール	受講者各自が提示した卒業論文テーマ・関連研究論文等に対して、受講生全員によるディスカッションを行い、卒業の論点を確定し、各自卒論の中心的史料・文献等の購読・分析を通じて、論点を明確にし、卒論の完成をめざしていきます。授業のスケジュールとしては、卒業論文のテーマの提示(1・2)(4月～)研究史の整理(3～6)(5月～)卒論論題の確定(7・8)(6月11日論題提出)研究史の整理と参考文献の検討(9～10)中心的史料等の分析と論点の明確化(11～13)卒論の章立に関する作業(14～15)卒論の概要に関する発表(16～18)(9月～)中間報告(19・20)卒論作成に関する技術的なアドバイス(21)最終報告(22・23)下書の提示に基づく指導と添削(24・25)清書・完成・提出(26～28)(12月10日提出)卒論をふりかえるの順で、論題提出日、卒論提出日等に合わせて進めていくが、全体として、発表・相互のディスカッション・指導という形式で進めていきます。
履修上の留意点	よりよい卒業論文を完成させる意欲を持って臨んでほしい。随時、発表を求めらるので早めに作業・研究を進めて授業に臨んでほしい。
成績評価の方法	卒業論文の内容とともに、完成に至る過程も重視して評価します。
教科書／テキスト	各自の卒論のテーマに応じて随時示していきます。
参考書	随時、示していきます。

履修コード	056201
科目名	日本史学演習II
担当者名	松本 信道

講義の到達目標(ねらい)	日本古代史の史料の輪読により、史料読解力の習熟と史料解釈を通じての歴史的諸様相の把握を目的とし、必要に応じて卒業論文作成の指導を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期の(1)～(15)回は、『令義解』所収の「職員令」をテキストとして用い、輪読・討論しながら奈良時代の官僚組織について再検討してみたい。後期の(16)～(30)回は、各自の卒業論文の研究テーマについての発表と討論を行い、それをもとに卒業論文を完成させる。
履修上の留意点	受講生は必ず予習をして出席すること。
成績評価の方法	平常点と出席点の総合で行う。
教科書／テキスト	『令義解』の当該部分をコピーして配布します。
その他	授業の方法は輪読・討論のゼミ形式で行う。

履修コード	055201
科目名	日本史学演習II
担当者名	湯浅 隆

講義の到達目標(ねらい)	日本近世史のうち都市・文化・宗教などをテーマとして卒業論文を作成しようとする学生を、主たる対象とした演習となります。卒業論文を、大学4年間の生活が凝縮するものと捉え、それへむかってオリジナルの作品を悔いなく創りあげていくことをめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール	各構成員は、以下の内容について研究発表をおこない、意見交換をとおして卒業論文の作成をおこなうものとします。前期(1～6)卒業論文のテーマを確定し、先行する研究を把握します。(7～15)論点を明確にしたうえで、論文構成の章立てを確定させていきます。後期(16～25)発表をとおし、内容に関する個々の論証を史料に基づいておこない、論文の精度を確たるものとしていきます。(26～30)それぞれの卒業論文の合評をおこないます。
準備学習	毎回の発表内容を想定し、有益な助言・発言ができるように心がけてください。
履修上の留意点	自己の卒業論文のみならず、ゼミ構成員全員のテーマ・方法に関心をもつことが必要です。
成績評価の方法	授業中の研究発表、討論時における発言に基づいて行います。
その他	卒業論文作成の必要に応じ、文書館・博物館などへ出かけます。

履修コード	043311
科目名	日本史学基礎演習
担当者名	熊本 史雄

講義の到達目標(ねらい)	大学で歴史学を専攻していくうえで基礎となる、「歴史を読み解く作法」を学んでいく。
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>前期：1回 授業の進め方などについての説明 / 講読資料について</p> <p>2回 「歴史学」とは？</p> <p>3回 図書館ツアー〔予定〕(ビデオ鑑賞、文献の検索方法)</p> <p>4回 歴史小説と歴史研究</p> <p>5回 「史料」とは？ ～「史料」と「資料」の間～</p> <p>6回 出来事と事実と真実</p> <p>7回 史料批判の方法① ～「外的批判」とその方法～</p> <p>8回 史料批判の方法② ～「内的批判」とその方法～</p> <p>9回 科学と実証／道徳と主義／戦争問題を考える</p> <p>10回 「工具書」について ～参考文献ガイダンス～</p> <p>11回 研究対象の見つけ方・探し方～問題の所在と論点の提示方法～</p> <p>12～14回 史料講読</p> <p>15回 論文・レポートの書き方 / レジュメの作り方</p> <p>後期：夏期休暇中の課題(レポート)に基づく「ミニ発表」(レジュメを用いて)を全員で順番に行う。</p>
履修上の留意点	歴史には「問」がある。「暗記する歴史」ではなく、「考える歴史」、「発見する歴史」を身につけるきっかけをつかんで欲しい。
成績評価の方法	夏期休暇中に課すレポートと後期の報告内容、さらには出席状況、授業態度を総合的に勘案して判断する。
教科書／テキスト	とくに指定しない(教師側で準備する)。
参考書	適宜紹介する。
その他	前期は講義形式で進め、後期は演習形式で行う。解説・補足説明などは随時織り交ぜていく。

履修コード	043411
科目名	日本史学基礎演習
担当者名	小泉 雅弘

講義の到達目標(ねらい)	歴史研究を行うための基礎的方法を習得するため、史料批判・史料解釈・史料操作について、具体的な例をあげながら学び、日本史研究の方法論を学習する。あわせて、社会における歴史学の活用について理解を深める。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)ガイダンス、(2・3)図書館ガイダンス、(4)禅文化歴史博物館見学、(5)日本史研究入門、(6)歴史研究のための手引-文献等の紹介、(7)論文の調べ方、(8～15)論文購読-日本史研究の方法を学ぶ、(16)絵画資料の活用、(17～26)地域文化財から歴史を探る、(27)国会図書館・史料保存機関の活用、(28)幕末維新と「維新回天帖」、(29)「維新回天帖」の見学、(30)レポート提出
履修上の留意点	歴史資料は情報やデータと言い換えることが可能である。そのような資料を基にしてどのような結論を導き出していくのか。歴史研究を学ぶということは考え方を学ぶことであり、この点に留意して授業にのぞんでほしい。
成績評価の方法	出席状況とレポートによって評価する。遅刻は減点。
教科書／テキスト	特になし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	小泉雅弘『下町の学芸員奮闘記-文化財行政と生涯学習の最前線-』(文芸社)1,400円。その他適宜紹介する。

履修コード	043541
科目名	日本史学基礎演習
担当者名	中野 達哉

講義の到達目標(ねらい)	歴史研究の現状について紹介し、大学で学び研究する「歴史学」がいかなる学問であるのか、各自が認識し、考えることを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>前期</p> <p>(1)授業の進め方、新入生研修旅行についてのガイダンス。(2～5)高校教科書にみる歴史記述の変化～変わる歴史像～。(6)図書館の使い方についてのガイダンス。(7・8)歴史と歴史研究・歴史学。(9・10)学内学会への参加とレポートの作成。(11～12)歴史研究と成果の公表～どこで歴史は創られるのか～。(13・14)歴史研究の現状と問題点。(15)夏期休暇中の課題レポート「生まれ育った地域の歴史を調べよう」の作成について。</p> <p>後期</p> <p>(16～20)地域と歴史研究。(21～25)史料の保存・利用と文書館～戦後の史料保存利用運動と現在～。(26～29)日本人の歴史観—東洋・西洋・日本—。(30)年度末課題レポートについて。</p>
準備学習	前回までの内容を咀嚼しておくこと。
履修上の留意点	授業は必ず出席すること。遅刻をしない。
成績評価の方法	レポートおよび出席状況。受講態度も重視する。
教科書／テキスト	教科書はなし。適宜必要に応じてプリントを配付する。
参考書	その都度に示す。

履修コード	045301
科目名	日本史学史
担当者名	湯浅 隆

講義の到達目標(ねらい) 歴史の捉え方は、時代によって変わってきました。この科目では、江戸時代以前については主な史書とおし、明治時代以降は歴史にたいする捉え方の変化とおし、現在にいたる日本史認識の変遷を説いていきます。この講義とおし、歴史学の現状を理解して下さい。

講義の内容／授業スケジュール 前期(1)記憶の保存と継承、(2)中国の正史、(3~4)8世紀以前の修史、(5~6)朝廷の修史事業、(7)古代における私撰の修史、(8~9)中世の史書とその背景、(10~14)近世における修史、(15)前期のまとめ。後期(16~17)近代歴史学、(18~20)19世紀後半における歴史学界の諸潮流、(21~23)20世紀前半、唯物史観と皇国史観、(24~26)20世紀後半の日本史学、(27~29)現代の日本史学、(30)後期のまとめ。

準備学習 授業内容を記したプリントを事前に配付します。それをしっかり読んで、授業には復習・確認のつもりで臨んでください。

履修上の留意点 日本史学の変遷への理解は、自らの歴史像を構築していくための必須要件です。この科目は、日本史学を専攻するための基礎科目と認識してください。日本史学の変遷を、知識としてではなく理解として記憶するように心懸けてください。

成績評価の方法 いくつかの事項については、授業中に各自の理解を尋ねます。前期末には江戸時代まで、後期中間には1945年まで、年度末には20世紀後半以降、をそれぞれ対象とする論述試験をします。評価は、すべてを合算して算出します。

教科書／テキスト 特定のものを使用せず、プリントを配付します。

参考書 その都度、提示します。

その他 授業は講義形式となります。

履修コード	044501
科目名	日本史史料講読I
担当者名	瀧音 能之

講義の到達目標(ねらい) 古代の史料を読解することによって、史料の理解力を養成すると共に、古代史へのアプローチ法を学ぶことを目標とします。

講義の内容／授業スケジュール 古代に編纂された史料のうち、『常陸国風土記』を具体的にとりあげ、冒頭の部分から読み下し解説を加えていきます。

- (1) 『常陸国風土記』の史料的価値
- (2~14) 『常陸国風土記』の講読
- (15) 確認テスト
- (16) 確認テストの返却および解説
- (17~29) 『常陸国風土記』の講読
- (30) 確認テスト

履修上の留意点 『常陸国風土記』を解説していきますが、ただ授業に出るだけでは、史料読解の力も『常陸国風土記』の理解力もつきません。必ず予習・復習をする習慣をつけて下さい。特に復習は忘れずにして下さい。

成績評価の方法 前期と後期におこなう確認テストを重視します。それに出席など平常点を加味して評価します。割合は、テスト85パーセントに平常点15パーセントと考えて下さい。

教科書／テキスト 最初の講義のときに指示します。1000円程度のものを予定しています。受講希望者は初回の講義には必ず出席して下さい。

参考書 瀧音能之『文献でたどる日本史の見取り図』2004年刊(青春出版社)730円+税

その他 古代史に興味と熱意のある学生の受講を待っています。

履修コード	044601
科目名	日本史史料講読II
担当者名	小松 寿治

講義の到達目標(ねらい) 言うまでもないが歴史研究には史料が必要である。それ故に歴史(日本史)研究の出発点(基本は史料を読むことと解釈にある)といつてよい。それによって、各自が歴史像を構築していくのである。そうした積み重ねが大事である。その過程で各自が新たな発見を通して、楽しさや意義を見出すことができるだろう。本講座では中世史分野に関する基礎史料を対象とする。

講義の内容／授業スケジュール (1・2)中世史料入門、(3~10)吾妻鏡を読む、(11~14)御成敗式目・建武式目を読む、(15)中世史料機関の紹介、(16~19)天皇の日記を読む、(20~23)公家日記を読む、(24~26)僧侶の日記を読む、(28~30)棟札・金石文を読む

履修上の留意点 歴史の研究をするうえで、まず手をとるのは、図書館にある史料を活字化した刊行物だと思う。それらの史料を読む術を学ぶ機会としたい。出席して仲間の読んでいる史料に耳を傾けることも上達の道を早めることにつながるので、出席を怠ることのないようにしていただきたい。

成績評価の方法 定期試験の結果、提出レポート、出席状況などによる。

教科書／テキスト とくに指定はしない。適宜必要に応じて史・資料を配布する。

履修コード	044701
科目名	日本史史料講読III
担当者名	中野 達哉

講義の到達目標(ねらい)	歴史の研究は、いかに理論を組み立て、それを実証していくかにある。そして、そのためには、先人たちの足跡として残された史料を読み解くことが必要である。本講義では、日本近世の史料を正確に読み込み、判断する力をつけることを目的とする。 織豊期～幕末期にかけてのさまざまな史料を取り上げて読み、分析していく。いうまでもなく、近世については、武家文書・町方文書・村方文書・寺社文書など多様な分野にわたり膨大な量の史料が伝えられている。授業では、いくつかのテーマを設けて行っていくが、読むための基礎的な力をつけるだけでなく、その史料の背景にある社会情勢などについても考えていく。
講義の内容／授業スケジュール	・前期 (1) 授業の進め方について。(2) 近世史料の特徴。(3～5) 武家文書①知行宛行。(6～10) 武家文書②法度と触書。(11～15) 武家文書③江戸の藩邸と藩日記。 ・後期 (16～19) 村方文書①村議定・村の取り決め。(20～22) 村方文書②村の事件と訴訟。(24～28) 宿場文書①事件と宿場の構造・交通制度。(29～30) 史料の所在と調査方法。
準備学習	講義において次週以降使用のプリントを事前に随時配布する。各自、プリントを予習すること。
履修上の留意点	難解なものとは怖がらず、親しみをもって史料を読んでほしい。
成績評価の方法	基本的には、年度末の定期試験により評価する。なお、授業の出欠状況も参考とする。
教科書／テキスト	教科書はなし、必要な資料は適宜プリントして配布する。

履修コード	044801
科目名	日本史史料講読IV
担当者名	小泉 雅弘

講義の到達目標(ねらい)	実証に裏づけされた歴史研究を行うために、その基礎となる日本近代史史料の読解力と分析力を養成する。
講義の内容／授業スケジュール	前期(1～15)は、「東京遷都の政治過程」をテーマとし、活字史料(公文書・書簡・日記など)を教材として、史料の読み方、解釈、内容分析などを行う。また後期(16～30)は、「東京府文書」(東京都公文書館所蔵)を使用して、くずし字の読解力を養う。
準備学習	事前に史料コピーを配布するので、調べておくこと。
履修上の留意点	必ず予習すること。
成績評価の方法	定期試験によって評価し、出席状況を加味する。
教科書／テキスト	史料をプリントして配布する。
参考書	児玉幸多編『くずし字解読辞典(普及版)』(東京堂出版)2,200円

履修コード	047701
科目名	日本史特講I〔古代〕
担当者名	宇佐美 正利

講義の到達目標(ねらい)	日本古代の仏教史の流れを理解させる。六世紀中頃に百済から伝えられた仏教がどの様に受容され、その後どの様に展開していったか、またそれが現在の我々にどのような影響を与えているかなどが理解出来るようにする。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：講義全体のガイダンス、第2～4回：仏教伝来、聖徳太子の仏教信仰、第5回：白鳳仏教、第6～9回：奈良仏教、第10～15回：平安仏教、第16～20回：『日本霊異記』の世界、第21～24回：浄土教の発達、第25～28回：神仏習合、第29～30回：修験道の成立
準備学習	最初の講義の時に翌週以降の資料を配布するから、それを読んでくる。また参考文献を提示するので、講義内容に関する部分を読んでくるように。
履修上の留意点	講義の時に配布する資料だけでなく、それに関する事項を積極的に調べてくるように。
成績評価の方法	学期末試験(7割)、レポート(3割)を基本に評価する。その際には、出席状況も勘案する。
教科書／テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	末木文美士『日本仏教史』(新潮文庫)

履修コード	047801
科目名	日本史特講II〔古代〕
担当者名	古谷 紋子

講義の到達目標(ねらい)	平安時代は日本社会の変質時期であると同時に、中世社会へと移行する重要な時期にあたる。平安時代の貴族社会について理解を深めることを目的とし、摂関期・院政期の政治・文化について講義をすすめる。おもに10世紀から12世紀末の日本社会の特質を考える。 漢文を中心とする史料は読みにくく意味も取りづらいが、律令といった法制史料、六国史をはじめとする歴史史料、貴族の日記である古記録などを適宜扱い、史料講読も行う。
講義の内容／授業スケジュール	1、ガイダンス(1) 2、古代の官位制度(2～4) 3、平安時代の政変(5～7) 4、摂関政治(8～10) 5、東国の兵乱(11～15) 6、制度と年中行事(16～18) 7、天皇と服装の平安時代(19～21) 8、東アジアとの交流と遣唐使(22～24) 9、天皇親政と院政(25～27) 10、院政と平氏政権(28～30)
履修上の留意点	毎回プリントを配布する。配布したプリントに目を通しながら授業を聴く事。また板書も多いので、書きもらすことのないように注意すること。
成績評価の方法	出席状況と前期・後期の論述試験により評価する。

履修コード	047901
科目名	日本史特講III [中世]
担当者名	今野 慶信

講義の到達目標(ねらい) 鎌倉時代の社会について考える。特に鎌倉幕府政治史、東国御家人たちの存在形態、地頭の村落支配等について考える。本講義の受講生には、鎌倉時代の歴史や文化に対して興味と問題関心を持って自ら研究する態度を養ってもらいたいと考えている。

講義の内容／授業スケジュール 学界をリードしてきた学説、最新の研究動向・研究論文も含めた研究史と関係史料も提示し、時代を下りながら、具体的研究成果も紹介しつつ講義していく。スケジュール予定は次の通り。(1)～(3)治承・寿永の内乱、(4)～(6)鎌倉幕府の成立、(7)～(9)將軍独裁と北条氏の台頭、(10)～(12)御家人制、(13)～(15)承久の乱、(16)～(18)執権政治の展開、(19)～(21)蒙古襲来、(22)～(24)得宗専制政治、(25)～(27)兩統問題と幕府、(28)～(30)鎌倉幕府の倒壊。

履修上の留意点 遅刻・途中退席は一切認めない。授業で配布する資料を貼り込むなど、ノート作りには工夫してもらいたい。

成績評価の方法 定期試験の結果、提出レポート、出席状況などによる。

教科書／テキスト なし。随時コピーを配布する。

参考書 随時紹介する。

履修コード	048101
科目名	日本史特講IV [中世]
担当者名	吉田 政博

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、近年の中世史研究の動向とその進展を踏まえ、近世へと移行する戦国期の権力と社会について、その理解を深めることを目的とする。具体的には東国社会を中心として、領国支配のあり方や地域社会の状況、人びとの生活や信仰、さらには文化活動などという多方面からのアプローチを通じ、各分野のポイントとなる研究論考とそれに関する史料を取り上げて、検討をすすめることとする。

講義の内容／授業スケジュール (1)～(10)近年の中世史研究の成果と課題ー研究史の把握と検討ー、(11)～(20)史料の分析と理解ー史料の考察と史料の多様性・可能性の検討ー、(21)～(30)東国における支配のあり方と地域社会ー大名領国の仕組みと人びとの生活の検討ー

準備学習 とくに後期は、次回の授業で使用するプリントを事前に配布するので、予習をすることがのぞましい。

成績評価の方法 年度末の定期試験の結果を基礎とし、授業の出席状況を加味する。

教科書／テキスト 教科書の指定はない。必要に応じたプリントを配布する。

参考書 必要に応じて講義中に紹介する。

履修コード	048301
科目名	日本史特講VI [近世]
担当者名	出口 宏幸

講義の到達目標(ねらい) 江戸時代の村・町の社会構造とその変容について見ていく。戦国時代を受けて成立した江戸時代は、農業以外の生産(漁業・林業など)が産業化し、多様な商品生産・流通が展開した。その結果、土地を基盤として成立した村落社会は、次第に変容を遂げていった。時の流れとともに、村落はどのように変わったのか。その具体像を知るため、海付村落(漁村)を中心に上げる。後期は、一般漁村と比較する意味合いから、江戸近郊に展開した狹師町を取り上げる。近年、その基本的性格、あるいは幕府との関わりなど、研究の進展が見られるとはいえ、いまだ途上にある狹師町研究は、解明すべき問題も山積といえる。授業では、狹師町の存在形態や明らかになった点を紹介しつつ、「狹師町とは何か」について考えてみたい。

土地(陸ーおか)ではなく、海を舞台に生産を展開した人々。その世界に触れ、理解することは、当時の社会における多様性の一端を知る機会となろう。

講義の内容／授業スケジュール (1)ガイダンス(2～3)戦国期から江戸時代へ(4～6)江戸時代の村と町(7～10)海付村落(漁村)の展開(11)幕府の漁業支配(12)漁業権の確立(13～15)漁獲物流通と村落の変容(16)漁業社会の成立(17～18)内湾漁業(19～20)江戸近郊狹師町とは(21～24)深川の成立と狹師町(25～26)芝金杉町(27～28)羽田・品川狹師町(29)佃島(30)江戸内湾の風景

履修上の留意点 積極的に授業に取り組むことで、江戸時代の社会を理解すること。ただ記憶するのではなく、社会のしくみやその時代を生きた人々について考え、そこから何かを得る機会としてほしい。

成績評価の方法 基本的には、年度末の定期試験が成績評価の対象となる。ただし、授業の出欠状況も参考とする。

教科書／テキスト 教科書は使用しない。授業に必要な資料は、そのつどプリントして配布する。

参考書 必要な場合は、授業中に指示する。

履修コード	048401
科目名	日本史特講VII [近代]
担当者名	熊本 史雄

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、日清・日露戦争期から第一次大戦、第二次大戦を経て、戦後のサンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約締結に至るまでの日本外交につき、史料を交えて講述する。
 前期では、朝鮮・満洲地域進出の足がかりとなった日清・日露戦争期の日本外交政策を起点に、第一次大戦後の「新外交」に「新外交」を模索したはずの日本が、満州事変を経て日中戦争、アジア・太平洋戦争へと突入していく過程を検証しつつ、その根底に潜む「外交思想」の解明を試みる。
 後期には、終戦工作を経て、敗戦後の日本が独立に向けて再生していく過程を、占領期GHQとの折衝交渉をつうじて検証する。
 こうした検証と解明をもとに、近代日本の歴史像の一面の提示を併せ行いたい。

講義の内容／授業スケジュール	第1回 前期の授業計画、参考文献などの説明 第2回 アジア進出の端緒① 第3回 アジア進出の端緒② 第4回 第一次大戦と東アジア社会 第5回 パリ講和会議と「ウィルソン主義」 第6回 「新外交」の実践とワシントン会議 第7回 「幣原外交」と「田中外交」 第8回 若槻礼次郎とロンドン海軍軍縮会議 第9回 満州事変とその拡大過程 ① 第10回 満州事変とその拡大過程 ② 第11回 松岡洋右と国際連盟脱退をめぐる動向 第12回 「広田外交」と「佐藤外交」 第13回 日中戦争への道 第14回 日中戦争とその拡大 第15回 中間試験 《以上前期》 第16回 前期の総括（中間試験返却）／後期の授業計画 第17回 日独伊三国同盟と日ソ中立条約 ① 第18回 日独伊三国同盟と日ソ中立条約 ② 第19回 南進政策と日米関係 第20回 日米交渉から日米開戦へ 第21回 総力戦体制と戦後の世界 第22回 終戦工作と戦後構想 第23回 敗戦と占領の開始 ① 第24回 敗戦と占領の開始 ② 第25回 「自衛外交」の模索 第26回 サンフランシスコ講和会議の準備作業 ① 第27回 サンフランシスコ講和会議の準備作業 ② 第28回 吉田茂の安全保障構想 第29回 サンフランシスコ講和条約の締結 第30回 日米安全保障条約と行政協定の締結
-----------------------	--

履修上の留意点	史料の講読を通じて外交政策の決定過程を追体験して欲しい。外交指導者が下した決断の理由は何か、その根底にある主張とは何か、といった問題意識を常に持つことが重要。
成績評価の方法	前・後期2回の試験の成績（70%）、および出席状況と授業態度（30%）で評価する。
教科書／テキスト	とくに指定しない。
参考書	適宜紹介する。
その他	講義形式で進め、レジュメと史料を毎回配布する。

履修コード	048411
科目名	日本史特講VIII [近代]
担当者名	勝田 政治

講義の到達目標(ねらい) 開国（ペリー来航）からアジア太平洋戦争までの近代日本政治史を考察することによって、日本近代国家の特質を明らかにすることを目的とします。近代史全般を視野に入れますが、幕末から昭和初期までを主な対象とします。

講義の内容／授業スケジュール	〈1〉講義概要の説明 〈2～5〉幕藩体制の特質、開国の意味、開国後の政治変動、江戸幕府の滅亡 〈6～12〉王政復古と戊辰戦争、版籍奉還と廃藩置県、開化政策の展開、留守政府と征韓論政変、大久保政權と内務省、内務行政の展開、国境の画定 〈13～15〉土族反乱、自由民権運動、明治14年の政変 〈16～19〉大日本帝国憲法、初期議会と日清戦争、日清戦後の政治状況、社会運動の登場 〈20～23〉日露戦争、桂園時代の政治、韓国併合と植民地政策、大正政変 〈24～30〉第一次世界大戦と日本、政党政治の展開、大正デモクラシーと社会運動、ワシントン体制下の内政、政党内閣期の政治、軍部の台頭、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争
-----------------------	--

準備学習	日本近代史の通史を読んでおいて下さい。
履修上の留意点	近代日本政治史にかぎらず歴史学には、さまざまな学説があります。私の講義も一つの学説として理解するようにしてください。講義では、他の学説をふくむ参考文献を随時紹介するようにつとめます。受講生はそれらの文献をはば広く読むことによって講義内容を確認し、最終的には自らの日本近代史論を作り上げることを期待します。
成績評価の方法	年度末の筆記試験を基本として評価しますが、出席状況も考慮します。
教科書／テキスト	ありません。講義概要（レジュメ）を配布します。
参考書	講義のなかで適宜紹介します。

履修コード	047411
科目名	日本中世史
担当者名	久保田 昌希

講義の到達目標(ねらい) 本講座は中世社会の構造を概観し、日本史上に占める位置を考えることを目的とする。はたして中世という社会は、古代から近世社会の間でいかなる構造をもち、いかなる展開を遂げたのかという、いわば中世社会の「枠組み」を紹介する。日本史概説は大きく前近代史と近代史に分けられるが、本講座はいわば「時代史」として展開する。なお特講は時代史のなかの個別研究として位置づけられる。近年の中世史研究の動向も紹介しつつ進めていきたい。

講義の内容／授業スケジュール (1～5) 古代から中世へ、(6～11) 鎌倉幕府と朝廷、(12・13) 武家と公家の法秩序、(14～18) 鎌倉中・後期の幕府と朝廷、(19) 建武政権をめぐって、(20～23) 室町幕府と守護体制、(24・25) 惣的結合と一揆の時代、(26～28) 戦国大名領国の形成、(29) 豊臣政権、(30) 近世(幕藩制)社会へ

履修上の留意点 細かな政治史、事件等の経緯についてはあまり紹介しない。各自で中世史関係の論文や図書を読んでほしい。また講義内容で関心をもった事項は自分で積極的に調べてほしい。もちろん質問も歓迎する。なお、とくに授業内容をまとめたプリントは配布しない。板書事項や講義内容を書き取る事も含めて、自分のノートを充実することを期待している。

成績評価の方法 定期試験の結果、提出レポート、出席状況などによる。

教科書／テキスト とくに指定はしない。適宜史料コピーを配布する。

参考書 適宜紹介する。

履修コード	046601 046602
科目名	日本仏教史
担当者名	松本 信道

講義の到達目標(ねらい) 本講座は、「仏教の日本的受容」というテーマを中心として、日本の古代史を再検討してみようというのがねらいである。仏教が日本に受容された背景を、政治的・社会的・思想的・宗教的環境の中で有機的にとらえていくということを基本的姿勢として講義を進める。とくに、インド・中国・朝鮮半島などの動向も視野に入れた国際的視点と、日本古代社会の皇族・貴族・豪族のみでなく、一般民衆の「苦惱」と「祈り」と「救済」をも視野に入れた民衆史的視点からもアプローチしてみたい。

講義の内容／授業スケジュール (1) ガイダンス、(2)～(5) インド・中国・朝鮮仏教の成立、(6)～(10) 日本への仏教伝来と受容、(11)～(15) 飛鳥仏教の成立と展開、(16)～(25) 奈良仏教の成立と展開、(26)～(30) 平安仏教の成立と展開

成績評価の方法 前期・後期2回のレポートと出席点を総合して評価する。

教科書／テキスト 随時、プリントにて配布します。

参考書 速水侑『日本仏教史 古代編』(吉川弘文館)

履修コード	047111 047112
科目名	日本文化史
担当者名	廣瀬 良弘

講義の到達目標(ねらい) 日本文化の歴史が、当時の社会の生産の仕組みや政治・経済・宗教などと深く関わりあっていたことに留意しながら、朝廷・公家・武家のみならず民衆が文化の創造に大きな役割を果たしていたことを明らかにしていきたいと思えます。そして、この日本文化は現代においても、多くは底流として、また、ときには、「日本の代表的な文化」として、存在しています。現代の文化と対比しながら、検討していきたいと思えます。

講義の内容／授業スケジュール 日本文化の流れを概観し、民衆の躍動やその文化が顕著になってくる中世の文化を中心にその前後の文化にも注目しながら、文化の様相と特色について見ていきます。
・日本文化史概観、・中世文化史研究の動向(1, 2)、・鎌倉仏教と文化(3～5)、・禅宗と五山文化(6, 7)、・南北朝から室町期の文化(8, 9)、・北山文化の展開(10, 11)、・東山文化とその基盤(12～15)、・中世の職能民(16, 17)、・連歌師の旅(18, 19)、・戦国社会と宗教(18, 19)、・戦国社会の駈込寺(20～22)、・大名領国の文化(23, 24)、・統一政権とその文化(25, 26)、・近世文化史研究の動向と寛永文化(27～30)

履修上の留意点 講義の中に出てきた事項について、図書館の蔵書や辞書などで調べ直してみたり、現地に行ってみたりすることが必要です。また、日本文化や歴史、宗教などをテーマとする博物館・美術館などの展示会を積極的に観覧し、できるかぎり「実物」に接する機会を持って下さい。受講する上では図書館所蔵の文化史・美術史に関する資料・ビデオ等を大いに活用することをすすめます。なお、本学の禅文化歴史博物館での文化史関連展示会の見学と学芸員による説明会を実施します。

成績評価の方法 定期試験の結果と授業の出欠を重視します。定期試験では一般論を回答しても正解とならないことが多いので注意して下さい。つまり授業に出席し、しっかりとしたノートができていないと合格点は取れません。

教科書／テキスト とくに指定しません。必要な資料は随時コピーを配布します。

参考書 講義内容に関する博物館・研究所などを随時提示して行きます。

履修コード	017101 017102 017103
科目名	日本民俗学
担当者名	牧野 真一

講義の到達目標(ねらい) 日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して、日本社会に展開する生活文化を追究する学問である。地域社会に伝承されてきた民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していきたい。

講義の内容／授業スケジュール (1～2) 民俗学の多様性(3～5) 民俗学の流れと現在(6～7) 家族生活と住まい(8～9) 食をめぐる民俗(10～11) 村と町のなりたち(12～13) 若者と一人前(14～15) 婚姻と出産・子育ての民俗(16～17) 女性・子ども・老人の民俗(18～20) 葬送儀礼と先祖祭祀(21～22) 里と海・山のなりわい(23～25) 祭りと年中行事(26～28) 民俗宗教の諸相(29～30) 北海道民俗・沖縄民俗の特徴

履修上の留意点 夏期レポート及び小レポートを実施する予定。

成績評価の方法 学年末に実施する筆記試験、それに夏期レポートと小レポートの合計をもって評価を行う。出席を重視する。

教科書／テキスト 谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義-生活文化へのアプローチ-』2006年刊(八千代出版) 2,100円(税込)、ISBN 4-8429-1405-X

参考書 講義内容を発展させるための参考文献は講義の中で紹介していきたい。

履修コード	017801 017802 017803
科目名	美術史概説
担当者名	北野 良枝

講義の到達目標(ねらい)	日本絵画の流れを主要なジャンルや流派ごとに概観する。美術の歴史を理解するにあたって、常に作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期 平安時代から室町時代の絵画 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識 (3) ～ (5) 仏教絵画 (6) ～ (8) 絵巻物 (9) ～ (10) 肖像画 (11) ～ (15) 室町時代の水墨画 後期 室町末から江戸時代の絵画 (16) ～ (20) 狩野派 (21) ～ (24) 琳派 (25) ～ (26) 浮世絵 (27) ～ (28) 南蘋派と洋風画 (29) ～ (30) 江戸から明治へ
履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。
成績評価の方法	学年末に筆記試験を実施し、その得点によって評価する。

履修コード	006201 006202
科目名	仏教美術
担当者名	村松 哲文

講義の到達目標(ねらい)	仏像の歴史について、信仰的な背景と照らし合わせながら概観する。本年度は、奈良と京都の寺院ごとに仏像を考察する。6世紀、我が国に伝来した仏教は瞬く間に日本に根付き、絢爛たる仏教文化を構築した。こうした中で、仏像の制作は時代を経るごとに発展していくが、様々な要因から仏像の表現は変化する。この変化の過程を各寺院で所蔵されている仏像を概観しながら、その特徴を把握していくことが本講義の目標である。 古代寺院の代表である法隆寺の仏像は、中国や朝鮮半島の影響を大きく受けて制作されている、その後平安時代になると平等院に代表される仏像のように日本独自の表現が確立する。こうした仏像表現の相違点について、スライドやDVDなどを用いて講義する。 また本講義では、仏像から制作者の心情に迫り、芸術という側面だけではなく、信仰という側面に留意して話を進める。なおインド・中国・朝鮮半島の仏教美術については「総合」(3) 仏教と芸術」で講義し、鎌倉時代以降の絵画については「禅美術」で講義する。
講義の内容／ 授業スケジュール	〔前期〕 仏像鑑賞の基礎 (1～3) , 法隆寺 (4～8) , 薬師寺 (9～11) , 東大寺 (11～15) 〔後期〕 唐招提寺 (16～18) , 大安寺 (19～21) , 興福寺 (22～24) , 東寺 (25～27) , 浄瑠璃寺 (28～30) 以上は予定であり、関連する他の仏像について適時解説する。
準備学習	都内近郊の博物館・美術館に行き、多くの仏像を鑑賞すること。
履修上の留意点	美術館・博物館・寺院に行き、多くの仏像を観察するように努めてもらいたい。仏教美術関連の展覧会には、必ず足を運ぶこと。
成績評価の方法	定期試験と出席率、レポートなどで総合評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	『かわいい、キレイ、かっこいい、たのしい仏像のみかた』 (日本文芸社)、その他については講義中に紹介する。

履修コード	016501
科目名	有職故実
担当者名	近藤 好和

講義の到達目標(ねらい)	10世紀後半以降の平安貴族社会で、和様化した公事(朝廷の儀式・政務)のマニュアルとして、令・格・式・儀式などを基礎に成立したのが有職故実である。従って、その扱う範囲は本来多岐にわたり、前近代では、有職故実研究はそのまま歴史研究でもあった。ところが、明治以降、有職故実が扱う範囲は、服飾・武具・調度・乗用具などの限定されたものになってしまった。しかし、これらが有職故実が扱う重要な分野であることは確かである。特にかかる「モノ」を実用の道具として即物的に扱うのが有職故実の特徴であり、「モノ」を現在の歴史学に取り込むためには、有職故実的な手法が不可欠と考える。また、それらの「モノ」を正しく理解することで、古典文学の理解もより深まる。そうしたなかで、本講義では、公家・武家の装束と中世の武具について講義する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期から後期前半にかけて、公家男子装束・公家女子装束・武家装束を講義する。続いて後期後半は、中世の甲冑・弓箭・刀剣について講義する。
履修上の留意点	出席などは一切取らないが、授業は体系的に進めていくので、毎時間まじめに出席しなければ、単位取得は難しいであろう。また、毎時間、プリントを配布するが、それ以外の板書も多いので、ノートは必ず必要である。
成績評価の方法	前・後期各一回の試験で判定する。具体的には、両試験の合計点を2で割り、60点以上を合格とする。なお、前期試験の成績不良者のうち、呼び出しに応じた学生に対しては、警告のうえ適切な救済処置を取る。
教科書／テキスト	特になし。毎時間、プリント(文章と図版)を配布する。
参考書	近藤好和『装束の日本史』平凡社新書 2007年 近藤好和『武具の日本史』平凡社新書 2010年

履修コード	028101
科目名	ラテン語
担当者名	上野 勝広

講義の到達目標(ねらい)	ラテン語の基礎文法を概説し、理解できるようにします。
講義の内容／ 授業スケジュール	下記のテキストを用いて、基礎文法の要点を順次説明してゆきます。必要に応じてテキストにない文例も補充し、各課末にあるラ文和訳の練習問題に取り組みます。 前期は序論から第12課まで、後期は第13課から第24課までを学習します。 前期(1)導入、ラテン語とは(2~5)文字と発音、動詞の直説法現在・未完了・未来、名詞の第1・2変格など(6~10)動詞の直説法完了・過去完了・未来完了、名詞の第3変格など(11~15)動詞の直説法現在・未完了・未来・過去完了・未来完了、名詞の第4・5変格、形容詞の比較法、など 後期(16~20)命令法、各種の代名詞、副詞、など(21~25)不定法、数詞、形式受動動詞、分詞、など(26~30)接続法、動名詞、動形容詞、様々な従属文、など
履修上の留意点	練習問題については、毎回出席者に指名し和訳例を発表してもらいます。受身でなく、自ら学び取る姿勢をもって授業に臨みましょう。 1回でも欠席してしまうと追いつくのが容易ではありません。授業そのものに加え、自習の負担が大きい科目です。
成績評価の方法	年間2回(前期末・後期末)のテストの結果(80%)に平常点(20%)を加味して評価します。
教科書／テキスト	松本悦治『ラテン語入門』(駿河台出版社)1,500円
参考書	辞書と共に初回の授業で紹介します。

履修コード	033001
科目名	歴史地理学
担当者名	小田 匡保

講義の到達目標(ねらい)	歴史時代の事柄も地理学的に扱えることを理解できるようにする。歴史学科学学生には、歴史学とは違う地理学的なもの見方に慣れてほしい。
講義の内容／ 授業スケジュール	主に日本の村落と都市の歴史地理について講義を行なう。歴史地理学の範囲は非常に広いので、「浅く広く」を基本に授業を進める。 1. 講義内容等の概要説明 2~3. 歴史地理学の概要 4~15. 歴史時代の村落と地方行政区画 (先史から現代まで、間に前期試験とその解説をはさむ) 16~23. 歴史時代の都市(古代が主、近世も1回) 24. 歴史地理学の資料 25. 歴史的町並み・景観保存 26~28. 後期試験とその解説、大学周辺のミニ巡検
準備学習	授業の後、ノートを見直して、話の筋をつかむことを薦める。
履修上の留意点	この科目は、地理学科・歴史学科両方の専門科目であるが、教員は地理学の間人であるので、地理学的な見方や内容が中心になる。しかし、高校の地理を履修していなければ理解できない内容ではない。むしろ、ある程度の日本史の知識を持っていることが望まれる。ただし、史料講読ではないので、古文書が読める必要はない。
成績評価の方法	成績評価は、試験(前期・後期の2回。持込不可)の点数が基本で、これに夏休みの調査レポートの点数を加味して行なう。出席回数が半分に達しない場合や、夏休みレポートが受理されない場合は、単位は認定できない。
教科書／テキスト	使用しないが、図表類のプリントを授業で配布する。
参考書	授業中に紹介する。